

徳島大学教養教育

教養教育履修の手引

2017(平成29)年度



は じ め に

教養教育院は、みなさんに専門教育にとっての基盤となる教養教育科目を提供し学んでもらいます。

みなさんはこれまで大学入学を目指して、この大学のことやその学部にどんなものがあるかをいろいろ調べたことと思います。大学ではもちろんそれぞれ専門学部で専門的なことを学び、必要な訓練を経て、みなさんが将来思い描いている職業につくことができます。みなさんは、それを夢見て入学してきたわけです。夢は大きく持たなくてはなりませんし、持ち続けなければなりません。さらに大きな夢、高い志（こころざし）を持たなくてはなりません。それは生涯にわたるものです。

しかし、高い山、たとえば富士山のような美しい山は、広大な裾野を持っています。あらゆる方向にパランスよく堆積物が積み重なって、美しい富士の頂（いただき）があるわけです。その裾野に当たるのが、実は偏りのない広い知識であり、その知識の積み重ねによって遠くまで見渡せる広大な視野が得られ、その結果的確な判断が可能となります。

教養は英語でリベラル・アーツとも言いますが、教養を身につけることは、自分で考え表現する、自分で判断し行動する自由を獲得することです。自分の思い描く夢を実現するためには、その自由を得なくてはなりません。夢の実現のために、教養を深める、自分の知らないことを自ら分け入って知ること、そして自分で考え自分で方向を見つけること、それが自由を叶えてくれる教養の力なのです。

教養教育院は、多種多様な授業を提供しています。どうしても制約はありますが、自らの意志で貪欲に未知の世界に分け入って、知的な冒険をしてください。そうすれば自分を見つけられ、自分の夢へとつながる土台ができあがります。それを補うスキルも見つかりますし、用意されています。そうしてその先にみなさんの夢が待ち構えているのです。自ら学ぶことを身に付ければ、それは生涯の宝となり、生涯にわたって新たなものにチャレンジしてゆくことができるのです。

教養教育は、10年後、20年後、30年後、いやもっと先でその価値がわかってくるものです。今、世界の人々が教養というものの大切さに改めて気づき始めています。ぜひみなさんも教養を生涯にわたって身に付け、世界の人々と交流してください。

掲 示 の 確 認

学生のみなさんへの連絡は、すべて掲示及び教務事務システムにより行います。少なくとも1日1回は、教養教育掲示板（教養教育4号館1階）と教務事務システムを確認するようにしてください。

教養教育院のHP

「履修の手引」や「授業概要（シラバス）」は、教養教育院のホームページ（HP）でも見ることができます。

<http://las.tokushima-u.com/>

平成 29 年度 新入生オリエンテーション等日程（学部生用）

| 学部名 | 総合科学部 | 医学部 | 歯学部 |
|--|--|---|--|
| 月日・曜日 | 公認サークルの紹介 場所:常三島体育館 出席は任意 | | |
| 4月3日(月) | 全学新入生歓迎サークルオリエンテーション 10:00~16:00(文化系団体・体育系団体・サポート系団体連合会主催) ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 集合時間 12:50 開催時間 13:00～17:30 場 所 常三島けやきホール(総合科学部2号館2階) | ●保健学科オリエンテーション 集合時間 9:45 開催時間 10:00～17:00 場 所 保健学科棟講義室 外 | |
| 4月4日(火) | 教養教育科目の履修登録開始 | | |
| | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 9:00～16:00 場 所 1-301講義室(総合科学部1号館3階) | ●医学科オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:30～12:00 場 所 大塚講堂小ホール ●医科栄養学科オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:30～12:00 場 所 藤井節郎記念医学センター多目的室(1)(2) ●保健学科オリエンテーション 開催時間 8:30～17:20 場 所 保健学科棟講義室、コンピュータルーム ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・医(男) 13:30～14:20 ・栄(男) 13:50～14:30 ・医・栄(女) 14:40～15:50 | ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:30～17:00 場 所 大講義室(歯学部校舎4階) |
| 4月5日(水) | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 9:00～12:00 場 所 1-301講義室(総合科学部1号館3階) | ●医学科オリエンテーション 開催時間 9:00～11:30 場 所 コンピュータルーム ●医学科SIH道場 開催時間 13:00～16:30 場 所 大塚講堂小ホール ●医科栄養学科オリエンテーション 開催時間 13:00～16:30 場 所 コンピュータルーム ●保健学科オリエンテーション 開催時間 9:00～12:00 場 所 保健学科棟講義室 ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・看・放・検(男) 13:50～14:40 ・看(女) 14:50～15:50 ・放・検(女) 15:30～16:10 | ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(女) 9:00～9:40 ・(男) 9:50～10:40 |
| | ★日帰り研修 開催時間 12:30～17:30 | | ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 11:45～16:00 場 所 大講義室(歯学部校舎4階) |
| 徳島大学入学式 | | | |
| 9:00 入場開始 10:00 開 式 式場:アスティとくしま(徳島市山城町東浜傍1) 10:45 終了予定 | | | |
| 4月6日(木) | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 13:00～16:30 場 所 1-301講義室(総合科学部1号館3階) | ●医学部オリエンテーション 開催時間 13:30～16:30 場 所 大塚講堂大ホール | ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 13:30～17:00 場 所 大講義室(歯学部校舎4階) |
| 蔵本地区新入生歓迎サークルオリエンテーション(蔵本地区サークルの紹介) 出席は任意 | | | |
| | | 開催時間 16:30～ 場 所 大塚講堂 | 開催時間 17:15～ 場 所 歯学部大講義室(4F) |
| 入学前の既修得単位認定説明会 18:10～ 場所:教養教育4号館202講義室 該当者のみ出席 | | | |
| 教養教育科目履修登録締切 10:00まで、一括抽選結果発表 17:00 | | | |
| 4月7日(金) | ●学部オリエンテーション 開催時間(男)8:50(女)9:50 場 所 1-301講義室(総合科学部1号館3階) ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(男) 9:20～10:10 ・(女) 10:20～11:40 | ●医学科・医科栄養学科合同 SIH道場 開催時間 8:45～12:00 場 所 大塚講堂大ホール ●医学科オリエンテーション 開催時間 13:00～16:00 場 所 総合実習室 ●保健学科 SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 9:00～16:00 場 所 保健学科棟講義室 | ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 9:00～16:30 場 所 大講義室(歯学部校舎4階) |
| | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 13:00～15:30 場 所 常三島けやきホール(総合科学部2号館2階) | | |
| 4月8日(土) | ●医学部 SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 新入生研修 開催時間 8:40～16:00 場 所 大塚講堂大ホール 外 | | |
| 4月9日(日) | | | |
| 4月10日(月) | 教養教育科目授業開始 | | |

☆次の学部では日帰り研修があります。 総合科学部:4月5日(水) 理工学部社会基盤デザインコース:日時未定(SIH道場で周知します)
 理工学部電気電子システムコース:日時未定(オリエンテーションで周知します) 理工学部情報光システムコース:4月8日(土)
 早々から、授業が始まるまでにいろいろな行事があります。体調を十分整えて、大学生活に備えてください。

※「オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」や「健康診断」などは必ず出席（受診）してください。
 ※「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」は全学部必修（1単位）の授業です。

| 薬学部 | 理 工 学 部 | | 生物資源産業学部 |
|---|---|--|--|
| | 昼間コース | 夜間主コース | |
| 全学新入生歓迎サークルオリエンテーション 10:00～16:00(文化系団体・体育系団体・サポート系団体連合会主催 公認サークルの紹介) 場所:常三島体育館 出席は任意 | | | |
| | | | ●学部オリエンテーション・高校復習テスト 集合時間 8:30 開催時間 8:40～16:05 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| 教養教育科目の履修登録開始 | | | |
| ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:30～12:00 場 所 第1講義室(薬学部実験研究棟 2階) | ●コース説明・高校復習テスト等 集合時間 10:00 開催時間 10:25～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 4階・5階 | | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 集合時間 8:30 開催時間 8:40～11:55 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(男) 13:50～14:30 ・(女) 15:30～16:10 | | ●コース説明・高校復習テスト等 集合時間 14:10 開催時間 14:35～19:30頃 場 所 K 309 講義室 (理工学部共通講義棟 3階) | ●オリエンテーション等 集合時間 12:40 開催時間 12:50～16:30 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:30～17:20 場 所 第1講義室(薬学部実験研究棟 2階) | ●オリエンテーション等 社会基盤, 機械科学 開催時間 9:00～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 4階 電気電子, 情報光, 応用理数 開催時間 8:40～14:20頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・応用化学(女) 9:00～9:40 ・機械科学(男) 10:00～11:00 ・応用化学(男) 11:00～11:40 | | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 集合時間 8:30 ★日帰り研修 開催時間 8:40～16:05 |
| | ●オリエンテーション等 応用化学 開催時間 12:50～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・電気電子(男) 13:00～14:00 ・応用理数(男) 13:50～14:40 ・電気電子(女) 14:50～15:50 ・応用理数(女) 15:30～16:10 | ●オリエンテーション等 開催時間 14:35～17:50頃 場 所 K 309 講義室 (理工学部共通講義棟 3階) | |
| 徳島大学入学式 | | | |
| 9:00 入場開始 10:00 開 式 10:45 終了予定 | | | |
| 式場： アスティとくしま (徳島市山城町東浜湧示1) | | | |
| ●学部オリエンテーション・SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 13:00～15:45 場 所 第1講義室(薬学部実験研究棟 2階) | ●学部オリエンテーション等 開催時間 入学式後 場 所 アスティとくしま ●オリエンテーション等 社会基盤, 機械科学, 応用化学 開催時間 14:35～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 電気電子, 情報光, 応用理数 開催時間 13:30～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 | ●学部オリエンテーション等 開催時間 入学式後 場 所 アスティとくしま ●オリエンテーション・防災学習等 開催時間 14:35～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 3階・4階・6階 | ●Web 履修登録 集合時間 12:30 開催時間 12:50～14:20 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| 蔵本地区新入生歓迎サークルオリエンテーション(蔵本地区サークルの紹介) 出席は任意 開催時間 15:45～ 場 所 薬学部第1講義室(2F) | | | |
| 入学前の既修得単位認定説明会 18:10～ 場所:教養教育4号館202講義室 該当者のみ出席 | | | |
| 教養教育科目履修登録締切 10:00まで, 一括抽選結果発表 17:00 | | | |
| ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 開催時間 8:40～16:40 場 所 第1講義室(薬学部実験研究棟 2階) | ●防災学習 電気電子, 情報光, 応用理数 開催時間 8:40～10:10頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 社会基盤, 機械科学, 応用化学 開催時間 10:25～11:55頃 場 所 理工学部共通講義棟 6階 ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・社会基盤(男) 9:00～9:50 ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・情報光・機械科学・社会基盤(女) 13:20～14:00 ・情報光(男) 14:30～15:40 ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 社会基盤 開催時間 16:20～19:30頃 場 所 理工学部共通講義棟 5階 | | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 集合時間 8:30 開催時間 8:40～11:55 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| | ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(男) 15:20～16:00 ・(女) 16:00～16:10 ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 社会基盤 開催時間 16:20～19:30頃 場 所 理工学部共通講義棟 5階 | ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(男) 15:20～16:00 ・(女) 16:00～16:10 ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 社会基盤 開催時間 16:20～19:30頃 場 所 理工学部共通講義棟 5階 | ◆健康診断(保健管理・総合相談センター) ・(女) 13:00～13:50 ・(男) 14:10～14:40 (女:アルコールパッチテスト) ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 集合時間 14:50 開催時間 15:00～19:30 場 所 K 206 講義室外 (理工学部共通講義棟 2階) |
| | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 機械科学 開催時間 9:00～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 4階・5階・6階 情報光 開催時間 8:40～16:05頃 場 所 K 206 講義室 (理工学部共通講義棟 2階) ★日帰り研修 機械科学, 情報光 | ●SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ 機械科学 開催時間 9:00～17:50頃 場 所 理工学部共通講義棟 4階・5階・6階 情報光 開催時間 8:40～16:05頃 場 所 K 206 講義室 (理工学部共通講義棟 2階) ★日帰り研修 機械科学, 情報光 | |
| 教養教育科目授業開始 | | | |

理工学部機械科学コース：4月8日(土)
 生物資源産業学部：4月5日(水)

理工学部応用化学システムコース：4月22日(土)

2017（平成 29）年度 教養教育関係行事予定

| 年 月 日 | 学 年 暦 | 教 養 教 育 関 係 行 事 予 定 |
|--------------------------------|---------------------------|---|
| 【2017 年】 4 月 3 日(月)～ 8 日(土) | | 新入生オリエンテーション SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～ |
| 4 月 4 日(火)～ 7 日(金) | | 新入生健康診断 |
| 4 月 4 日(火) ～ 7 日(金) 10:00 | | Web による履修登録開始 Web による履修登録締切 |
| 4 月 6 日(木) | 【入学式】 | |
| 4 月 10 日(月) | | 前期授業開始 |
| 4 月 21 日(金) | | 前期履修登録変更締切 |
| 5 月 2 日(火) | | 金曜日の振替日（金曜日の授業を実施） |
| 6 月 17 日(土) | | 英語統一試験（TOEIC-IP, TOEFL ITP）2 年生 |
| 6 月 24 日(土) | | ” 1 年生 |
| 7 月 15 日(土) | | ” 追試験 |
| 7 月 21 日(金)～ 8 月 3 日(木) | | 前期試験期間及び総括授業期間 |
| 8 月 8 日(火) | | 追試験願出締切 |
| 8 月 24 日(木) | | Web による前期試験成績通知完了日 |
| 9 月 1 日(金)～ 7 日(木) | | 追試験・再試験期間 |
| 9 月 12 日(火) | | Web による追試験・再試験の成績通知完了日 |
| 9 月 25 日(月) ～ 29 日(金) 10:00 | | Web による履修登録開始 Web による履修登録締切 |
| 10 月 2 日(月) | | 後期授業開始 |
| 10 月 8 日(日)～ 9 日(月) | 【大学祭】（蔵本祭） | |
| 10 月 10 日(火) | | 月曜日の振替日（月曜日の授業を実施） |
| 10 月 13 日(金) | | 後期履修登録変更締切（ただし、火曜日 授業の履修登録変更締切は10月17日） |
| 11 月 1 日(水) | | 金曜日の振替日（金曜日の授業を実施） |
| 11 月 2 日(木) | 【開学記念日】 | |
| 11 月 4 日(土)～ 5 日(日) | 【大学祭】（常三島祭） | |
| 【2018 年】 1 月 12 日(金) | 【大学入試センター試験場 設営のため休業日】 | |
| 1 月 13 日(土)～ 14 日(日) | 【大学入試センター試験】 | |
| 1 月 29 日(月)～ 2 月 9 日(金) | | 後期試験期間及び総括授業期間 |
| 2 月 15 日(木) | | 追試験願出締切 |
| 2 月 16 日(金) | | Web による後期試験成績通知完了日 |
| 2 月 25 日(日)～ 26 日(月) | 【一般入試（前期日程）】 | |
| 2 月 26 日(月)～ 3 月 2 日(金) | | 追試験・再試験期間 |
| 3 月 7 日(水) | | Web による追試験・再試験の成績通知完了日 |
| 3 月 12 日(月) | 【一般入試（後期日程）】 | |
| 3 月 23 日(金) | 【卒業式・修了式】 | |

2017 (平成 29) 年度 学年暦 (教養教育)

4

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
| ... | ... | ... | ... | ... | ... | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | ①10 | ①11 | ①12 | ①13 | ①14 | 15 |
| 16 | ②17 | ②18 | ②19 | ②20 | ②21 | 22 |
| 23 | ③24 | ③25 | ③26 | ③27 | ③28 | ②9 |
| 30 | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

5

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ④1 | 金④2 | ③ | ④ | ⑤ | 6 |
| 7 | ⑤8 | ④9 | ④10 | ④11 | ⑤12 | 13 |
| 14 | ⑥15 | ⑤16 | ⑤17 | ⑤18 | ⑥19 | 20 |
| 21 | ⑦22 | ⑥23 | ⑥24 | ⑥25 | ⑦26 | 27 |
| 28 | ⑧29 | ⑦30 | ⑦31 | ... | ... | ... |

6

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ... | ... | ... | ⑦1 | ⑧2 | 3 |
| 4 | ⑨5 | ⑧6 | ⑧7 | ⑧8 | ⑨9 | 10 |
| 11 | ⑩12 | ⑨13 | ⑨14 | ⑨15 | ⑩16 | 17 |
| 18 | ⑪19 | ⑩20 | ⑩21 | ⑩22 | ⑪23 | 24 |
| 25 | ⑫26 | ⑪27 | ⑪28 | ⑪29 | ⑫30 | ... |

7

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ... | ... | ... | ... | ... | 1 |
| 2 | ⑬3 | ⑫4 | ⑫5 | ⑫6 | ⑬7 | 8 |
| 9 | ⑭10 | ⑬11 | ⑬12 | ⑬13 | ⑭14 | 15 |
| 16 | ⑮17 | ⑭18 | ⑭19 | ⑭20 | ⑮21 | 22 |
| 23 | ⑯24 | ⑮25 | ⑮26 | ⑮27 | ⑯28 | 29 |
| 30 | ⑰30 | ... | ... | ... | ... | ... |

8

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|
| ... | ... | ⑰31 | ⑱ | ⑲ | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | ⑩ | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | ... | ... |
| コマ数 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | |

9

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| ... | ... | ... | ... | ... | ⑳ | 2 |
| 3 | ⑳ | ㉑ | ㉒ | ㉓ | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | ⑲ | 19 | 20 | 21 | 22 | ㉔ |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

10

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
| 1 | ①2 | ①3 | ①4 | ①5 | ①6 | 7 |
| 8 | ⑨ | 月⑩ | ②11 | ②12 | ②13 | 14 |
| 15 | ③16 | ②17 | ③18 | ③19 | ③20 | 21 |
| 22 | ④23 | ③24 | ④25 | ④26 | ④27 | 28 |
| 29 | ⑤30 | ④31 | ... | ... | ... | ... |

11

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ... | ... | 金⑤1 | ⑤2 | ③ | 4 |
| 5 | ⑥6 | ⑤7 | ⑤8 | ⑥9 | ⑥10 | 11 |
| 12 | ⑦13 | ⑥14 | ⑥15 | ⑦16 | ⑦17 | 18 |
| 19 | ⑧20 | ⑦21 | ⑦22 | ②3 | ⑧24 | 25 |
| 26 | ⑨27 | ⑧28 | ⑧29 | ⑧30 | ... | ... |

12

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| ... | ... | ... | ... | ... | ⑨1 | 2 |
| 3 | ⑩4 | ⑨5 | ⑨6 | ⑨7 | ⑩8 | 9 |
| 10 | ⑪11 | ⑩12 | ⑩13 | ⑩14 | ⑪15 | 16 |
| 17 | ⑫18 | ⑪19 | ⑪20 | ⑪21 | ⑫22 | ㉕ |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

1

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | ⑧ | ⑫9 | ⑫10 | ⑫11 | 12 | 13 |
| 14 | ⑬15 | ⑬16 | ⑬17 | ⑬18 | ⑬19 | 20 |
| 21 | ⑭22 | ⑭23 | ⑭24 | ⑭25 | ⑭26 | 27 |
| 28 | ⑮29 | ⑮30 | ⑮31 | ... | ... | ... |

2

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ... | ... | ... | ... | ⑯ | ⑳ | 3 |
| 4 | ⑰ | ⑱ | ㉑ | ㉒ | ㉓ | 10 |
| ⑩ | ⑪ | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | ㉔ | ㉕ | ㉖ | ... | ... | ... |
| コマ数 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | |

3

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
| ... | ... | ... | ... | ㉗ | ㉘ | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | ㉙ | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

 休業期間
 祝・土・日
 試験期間・総括授業
 追・再試期間

※日付横の○内の数字は授業回数を示す。

目 次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第1章 徳島大学における学びについて | 1 |
| Ⅰ. 教養教育の理念・目標 | 1 |
| Ⅱ. 大学での学びの全般的な注意 | 1 |
| 第2章 教養教育の履修全体にわたる事項 | 3 |
| Ⅰ. 単位の基準 | 3 |
| Ⅱ. 教養教育の開設授業科目 | 3 |
| Ⅲ. 特別な単位の認定 | 6 |
| 1. 入学前の既修得単位の認定 | 6 |
| 2. 「放送大学」の修得単位の認定 | 7 |
| 3. 外国語技能検定試験による単位の認定 | 7 |
| 4. 留学による単位の認定 | 9 |
| Ⅳ. 授業の履修手続き | 9 |
| 1. 履修登録の方法と期間 | 10 |
| 2. 初回授業受講時の注意 | 11 |
| 3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間 | 12 |
| 4. 履修登録確認について | 13 |
| Ⅴ. 授業を受ける | 13 |
| 1. 授業の場所 | 13 |
| 2. 授業の時間帯 | 14 |
| 3. 授業のクラス分け | 14 |
| 4. 授業を受ける態度 | 14 |
| 5. オフィス・アワーについて | 14 |
| 6. 学習支援室の利用 | 15 |
| 7. 気象警報等が徳島県徳島市に発表された場合の授業の休講 | 15 |
| Ⅵ. 試験及び成績の評価 | 15 |
| 1. 受験資格 | 15 |
| 2. 学期末試験の期間 | 15 |
| 3. 試験の受験心得 | 15 |
| 4. 成績の評価 | 15 |
| 5. 成績に関する疑義 | 16 |
| 6. 不正行為について | 16 |
| 7. 成績の通知 | 16 |
| 8. 追試験 | 16 |
| 9. 再試験 | 17 |
| 10. 再履修について（特に基礎基盤教育科目群と外国語教育科目群） | 17 |
| Ⅶ. 教養教育の授業に関する付随的な事項 | 18 |
| 1. Grade Point 評価 | 18 |
| 2. 科目ナンバリング | 18 |
| 3. 授業参観について | 19 |
| 4. 教養教育の授業公開について | 19 |
| 5. 理工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について | 19 |
| 6. 学生による授業評価アンケートについて | 19 |
| 7. 「eラーニング科目(知プラ e)」について | 20 |
| 第3章 学部・学科別の履修方法 | 22 |
| ① 総合科学部 | 22 |
| ② 医学部 | 24 |
| 1. 医学部医学科 | 24 |
| 2. 医学部医科栄養学科 | 26 |
| 3. 医学部保健学科 | 28 |
| ① 医学部保健学科看護学専攻 | 28 |
| ② 医学部保健学科放射線技術科学専攻 | 30 |
| ③ 医学部保健学科検査技術科学専攻 | 32 |
| ③ 歯学部 | 34 |
| 1. 歯学部歯学科 | 34 |

| | |
|--|-----------|
| 2. 歯学部口腔保健学科 | 36 |
| ④ 薬学部 | 38 |
| ⑤ 理工学部 | 40 |
| 1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース, 応用理数コース | 40 |
| 2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース | 42 |
| ⑥ 理工学部夜間主コース | 44 |
| 1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース, 応用理数コース | 44 |
| 2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース | 46 |
| ⑦ 生物資源産業学部 | 48 |
| ⑧ 留学生 | 50 |
| 第4章 教養教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧 (2017年度) | 51 |
| 第5章 徳島大学教養教育履修規則 | 65 |
| 第6章 教養教育に関わる学生生活 | 69 |
| 1. 学生窓口と取扱時間 | 69 |
| (1) 教養教育履修学生の窓口事務 | 69 |
| (2) 2年生以降の窓口事務 | 69 |
| (3) 取 扱 時 間 | 69 |
| 2. 学生への連絡方法 (掲示及び教務事務システム) | 69 |
| 3. 学 生 証 | 70 |
| 4. 各種証明書の発行 | 70 |
| 5. 講義室の使用 | 71 |
| 6. 授 業 料 | 72 |
| 7. 授 業 料 免 除 | 72 |
| 8. 奨 学 金 | 72 |
| 9. 健康管理関係 | 73 |
| 10. 課外活動その他学生生活に関する事 | 73 |
| 11. 交通事故の防止 | 73 |
| 12. そ の 他 | 73 |
| (1) 学生の呼び出し等について | 73 |
| (2) 郵便物について | 73 |
| (3) 喫 煙 について | 73 |
| (4) 遺失物及び拾得物について | 73 |
| (5) 交通事故・盗難について | 74 |
| (6) 携帯電話等の使用について | 74 |
| (7) エレベーターの使用について | 74 |
| (8) そ の 他 | 74 |
| 第7章 常三島キャンパス | 76 |
| 総合科学部建物配置図 (教養教育棟を含む) | 76 |
| 理工学部建物配置図 | 76 |
| 教養教育4, 5, 6号館 | 77 |
| 総合科学部1, 2, 3号館 | 78 |
| 理工学部共通講義棟 (K棟) | 78 |
| 総合運動場 | 79 |

第1章

徳島大学における学びについて

| | |
|-------------------------|---|
| I. 教養教育の理念・目標 | 1 |
| II. 大学での学びの全般的な注意 | 1 |

用語の説明

「履修」：受けたい授業が決まったら、登録の作業を行い受講の手続きをします。授業を受け、試験やレポートを提出して、合格すればその授業の単位が修得できます。この一連の流れを履修といいます。

「履修要件」：自分の所属する学部学科が、履修規則によって定めた進級や卒業のため各々の科目において最低限修得しなければならない単位の条件を履修要件といいます。自分の所属する学科の教養教育の履修要件については、学部・学科別の履修方法（p.22～p.50）で説明しています。

「単位」：単位とは、予習・復習に時間をかけて、1時間半の授業を受け、試験やレポートなどによって成績の評価を受けて合格した場合に認定されるものです。授業によって、1単位、2単位などのように決まっています。授業概要（シラバス）に示されています。詳しくは「単位の基準」（p.3）で説明しています。

第1章 徳島大学における学びについて

I. 教養教育の理念・目標

徳島大学では、教養教育の理念と3つの目標を定め、学生の皆さんの学びへの意欲と、知識、能力を高めようとしています。

<理念>

徳島大学における教養教育は、幅広い学問領域を学ぶことを通じて、広い視野を持ち、俯瞰的に物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた人間性に富む人格の形成を促すとともに、自律して未来社会の諸問題に立ち向かう「進取の気風」を身につけ、「持続可能な社会づくり」を担うための学問的基盤を形成することを理念としています。

<3つの目標>

1. 大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を身につけて、社会人として必要な豊かな人間性と高い倫理観を修得する。
2. 諸科学の基本的思考法や、情報処理能力、言語運用能力などを身につけて、複合的な視点から専門分野を理解するために必要な基礎知識を修得する。
3. グローバル化社会に対応した国際感覚と地域社会のさまざまな課題を主体的に捉える態度を身につける。

II. 大学での学びの全般的な注意

1. 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。

本学の授業科目には教養教育院が行う教養教育科目と皆さんの所属する学部が行う専門教育科目があります。

教養教育院が行う教養教育科目については、次の資料が用意されています。

- ・『教養教育履修の手引（本冊子）』
教養教育で行われる授業を履修するための重要な事項が説明されています。
- ・『教養教育授業概要（シラバス）』（Web）
教養教育で行われるそれぞれの授業の概要が説明されています。
- ・『教養教育時間割』
前・後期別に作成されています。
- ・『徳島大学教養教育2017学びのファーストステップ』
教養教育のカリキュラムや授業の登録方法などが分かりやすく説明されています。

また、皆さんの所属する学部の専門教育科目などの授業については、次の資料が用意されています。

- ・『学部学科の履修の手引』
- ・『専門科目の時間割』
- ・『専門科目の授業概要（シラバス）』

皆さんは、これらの資料をもとにして、それぞれ所属する学部学科によって決められた教養教育科目と専門教育科目の単位を修得し、卒業することになります。

2. 時間割を作る

大学では、各自が自由に授業を選ぶため、ひとりひとりが異なる「時間割」を作成することになります。

授業には、学部ごとに必ずとらなければならない必修科目と学生が選択を行う選択科目があります。まず、必修科目から時間割を埋めていく手順となります。SIH 道場などの集中講義も忘れないように時間割に加えてください。

詳しくは、『徳島大学教養教育 2017 学びのファーストステップ』にある「授業時間割表の作り方」に従って時間割を作成してください。

3. 授業の登録

時間割が決まったら、パソコンやタブレット等で教務事務システム（Web 履修登録）によって受講科目を登録します。その方法については、『徳島大学教養教育 2017 学びのファーストステップ』に詳しく説明していますので、そちらを見てください。Web 履修登録は、**前期は 4 月 7 日(金) 10 時まで、後期は 9 月 29 日(金) 10 時まで（理工学部夜間主コースも同じ）に登録してください。**なお、履修登録数が受講定員を超過した場合は、抽選による受講調整を行います。抽選があった場合、結果は教務事務システムに反映されます。抽選がある受講科目を登録した学生は必ず教務事務システムで結果を確認するようにしてください。

4. 悩んだときは

教養教育に関して分からないことがあったら、教養教育 4 号館 1 階の教育支援課教養教育係に相談してください。それぞれの学部にある学務（教務）係や学部・学科の教務委員やクラス担任も、履修相談などに応じています。

また、各授業担当教員のオフィスアワーの時間や場所は、『教養教育授業概要（シラバス）』の各授業の概要の中に記載されています。

5. 日々のお知らせ

休講、補講、教員からの連絡等は、教務事務システムからメール配信される他、すべて掲示板によって知らされます。教養教育に関するお知らせ等は、教養教育 4 号館 1 階の掲示板及び電子掲示板に掲示します。毎日少なくとも一回は、教養教育掲示板・電子掲示板を確認するようにしてください。

授業が、教員の出張のためや気象状況などで休講になることがあります。そうした休講情報は、教務事務システムからメール配信されます。また、休講になった授業については補講を行う場合があります。

6. その他

大学等（本学を含む。）を卒業又は中途退学して、本学に入学した学生は、入学前の既修得単位を本学の単位に認定できる制度がありますので、期日内にその手続きをしてください。

説明会を 4 月 6 日(木) 18 時 10 分から教養教育 4 号館 202 講義室で開催しますので、既修得単位の認定を申請する学生は、必ず出席してください。詳しくは、「第 2 章 Ⅲ. 1. 入学前の既修得単位の認定」(p. 6) を参照ください。

第2章

教養教育の履修全体にわたる事項

| | |
|-----------------------------------|----|
| I. 単位の基準 | 3 |
| II. 教養教育の開設授業科目 | 3 |
| III. 特別な単位の認定 | 6 |
| 1. 入学前の既修得単位の認定 | 6 |
| 2. 「放送大学」の修得単位の認定 | 7 |
| 3. 外国語技能検定試験による単位の認定 | 7 |
| 4. 留学による単位の認定 | 9 |
| IV. 授業の履修手続き | 9 |
| 1. 履修登録の方法と期間 | 10 |
| 2. 初回授業受講時の注意 | 11 |
| 3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間 | 12 |
| 4. 履修登録確認について | 13 |
| V. 授業を受ける | 13 |
| 1. 授業の場所 | 13 |
| 2. 授業の時間帯 | 14 |
| 3. 授業のクラス分け | 14 |
| 4. 授業を受ける態度 | 14 |
| 5. オフィス・アワーについて | 14 |
| 6. 学習支援室の利用 | 15 |
| 7. 気象警報等が徳島県徳島市に発表された場合の 授業の休講 | 15 |
| VI. 試験及び成績の評価 | 15 |
| 1. 受験資格 | 15 |
| 2. 学期末試験の期間 | 15 |
| 3. 試験の受験心得 | 15 |
| 4. 成績の評価 | 15 |
| 5. 成績に関する疑義 | 16 |
| 6. 不正行為について | 16 |
| 7. 成績の通知 | 16 |
| 8. 追試験 | 16 |
| 9. 再試験 | 17 |
| 10. 再履修について（特に基礎基盤教育科目群と外国語教育科目群） | 17 |
| VII. 教養教育の授業に関する付随的な事項 | 18 |
| 1. Grade Point 評価 | 18 |
| 2. 科目ナンバリング | 18 |
| 3. 授業参観について | 19 |
| 4. 教養教育の授業公開について | 19 |
| 5. 理工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について | 19 |
| 6. 学生による授業評価アンケートについて | 19 |
| 7. 「eラーニング科目(知プラe)」について | 20 |

第2章 教養教育の履修全体にわたる事項

I. 単位の基準

1単位あたりの学習時間は大学設置基準第21条、徳島大学学則第30条で45時間と定められています。これに従って、授業ごとに単位数が決められていますが、1回の授業について、講義については2時間の予習と復習が、演習、実験、実習については1時間の予習又は復習が必要です。各授業科目に対する単位数は、時間割表とシラバスに次のように数字と記号で表されています。なお、ウェルネス総合演習は、授業名に演習がついていますが、単位の考え方は講義と同じです。また、外国語については、単位の考え方は原則演習ですが、発信型英語は講義の扱いとなります。

単位数の標記の例（原則1学期15回の授業に対する単位数）

| | 時間割での表記の仕方 | 履修すると与えられる単位数 |
|--------------|------------|-----------------|
| 一般教養教育科目群 | 1 L | 1 単位 |
| | 2 L | 2 単位 |
| グローバル化教育科目群 | 2 L | 2 単位 |
| イノベーション教育科目群 | 2 L | 2 単位 |
| | 2 S | 2 単位 |
| 基礎基盤教育科目群 | | |
| 高大接続科目 | 2 L | 2 単位 ※① |
| 自然科学入門 | 2 L | 2 単位 ※② |
| 基礎科目 | 2 L | 2 単位 |
| 実験 | 2 E | 2 単位（4講時の実験の授業） |
| 基盤教育学 | 2 L | 2 単位 |
| ウェルネス総合演習 | 2 L | 2 単位 |
| 汎用的技能教育科目群 | | |
| SIH 道場 | 1 L | 1 単位（8回の授業担当） |
| 情報科学 | 2 L | 2 単位 |
| スタディスキル | 2 L | 2 単位 |
| コミュニケーション | 2 L | 2 単位 |
| 地域科学教育科目群 | 1 S 2 L | 1 単位 2 単位 |
| 医療基盤教育科目群 | 2 L | 2 単位 |
| 外国語教育科目群 | | |
| 外国語の科目 | 1 S | 1 単位 |
| 発信型英語 | 2 L | 2 単位 |

L, S, Eは授業形式であり、Lは講義、Sは演習、Eは実験を表しています。

※① 高大接続科目「数学」の修得単位は、卒業に必要な単位数に認められる学科と認められない学科があります。卒業に必要な単位数に認められる学科では、一般教養教育科目群の「自然と技術」の単位数に認められます。各学科別の履修方法を参照してください。

※② 自然科学入門の修得単位は、医学部医学科及び歯学部歯学科では必修の単位です。それ以外の学部学科は、卒業に必要な単位数と認められません。各学部学科別の履修方法を参照してください。

II. 教養教育の開設授業科目

教養教育では、開設されている授業科目を8つの科目群に分けています。各科目群にはいくつかの授業科目があり、そしてそれぞれの授業科目のもとに複数の授業題目が設けられています。

次の科目表を参照してください。

科 目 表

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 授 業 題 目 |
|---------------|--|---|
| 科 目 群 | 授 業 科 目 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術 | 個々の授業題目 |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | 個々の授業題目 |
| | 日本事情（留学生対象） | 日本事情 I～IV |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | 個々の授業題目 |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 自然科学入門 基礎数学 基礎物理学 基礎物理学実験 基礎化学 基礎化学実験 基礎生物学 基礎生物学実験 基盤教育学 ウェルネス総合演習 | 個々の授業題目 |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 情報科学 スタディスキル コミュニケーション | 個々の授業題目 |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | 個々の授業題目 |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | 個々の授業題目 |
| 外国語教育科目群 | 英語 ドイツ語 フランス語 中国語 | 基盤英語 主題別英語 発信型英語 ドイツ語入門 ドイツ語初級 フランス語入門 フランス語初級 中国語入門 中国語初級 |
| | 日本語（留学生対象） | 日本語 1～8 |

学生の皆さんは、所属する学部学科によって定められている履修要件に従って、それぞれの科目群から、授業科目・授業題目を選んで履修し、卒業に必要な単位を満たす必要があります。

各科目群及び授業科目の概要は次のとおりです。

1. 一般教養教育科目群

人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す科目です。

次の4つの授業科目で構成されています。

1) 歴史と文化 2) 人間と生命 3) 生活と社会 4) 自然と技術

各学部学科において、履修する単位が指定されていますので、「第3章 学部・学科別の履修方法」に従って、それぞれの授業科目に属する授業題目を履修し、必要な単位をそろえてください。

また、次のことに注意して履修してください。

- ア 同じ授業題目の授業を再度履修することはできません。
- イ 各授業科目において卒業に必要な単位として認められるのは6単位（3授業題目）までです。
- ウ 一般教養教育科目のゼミナール形式（少人数クラス）の授業（授業題目が「ゼミナール○○○」となっているもの）は、1つしか履修できません。

2. グローバル化教育科目群

国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ科目群です。

日本事情

留学生を対象としています。日本事情Ⅰ～Ⅳがあり、一般教養教育科目群の中の授業（歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なることがありますので、日本事情担当教員に問い合わせてください。

3. イノベーション教育科目群

さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学びます。

4. 基礎基盤教育科目群

大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること、さらには自立的学習能力や心身健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得します。

5. 汎用的技能教育科目群

学術的な手法としてのアカデミック・スキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学びます。

6. 地域科学教育科目群

地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学びます。

一部の学部では、地域志向科目として指定された授業題目を履修することで代えることができます。地域志向科目には、時間割で☆印を付しています。

7. 医療基盤教育科目群

医学部、歯学部、薬学部の学生を中心に、横断的な医療分野の基盤教育と汎用的技能を学びます。専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルの獲得を目指します。

8. 外国語教育科目群

英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学習を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指します。英語に関しては、「基盤英語」、「主題別英語」、「発信型英語」の学習を行います。

外国語の区分：

1) 英語

英語は、基盤英語（B：Basic English）、主題別英語（T：Thematic English）、発信型英語（C：

Communicative English) で構成されています。基盤英語と主題別英語は、1 授業で 1 単位です。発信型英語は、1 授業で 2 単位の授業です。

各学部学科の履修要件に従って、4 単位から 8 単位まで履修することになります。各学部学科に応じて履修のパターンが用意されています。

また、次のことに注意して履修してください。

ア B の履修は上限 2 単位です。

ただし、薬学部は上限 1 単位です。

イ B の再履修は、次の期の T を余分に取ることで代替可能です。

ウ T の再履修は T で、C の再履修は原則 C を再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

エ C については、少人数で行うクラスのため、開講数の関係上原則 1 回の履修とします。ただし、総合科学部は 2 回の履修とします。

2) 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）

それぞれ「入門」と「初級」の授業科目があります。各学部学科の履修要件に応じて、ひとつの外国語を 2 単位又は 4 単位のまとまりで履修してください。

日本語

留学生を対象としています。日本語 1～8 の授業科目があり、外国語の単位に含めることができます。

【学部学科が教養教育に開放する授業科目等の履修について】

学部学科の専門教育科目の授業（当該学部・学科の学生にとっては必修）を、他の学部学科の学生が履修すると教養教育の指定科目の単位に含めることができます。

該当する授業科目は以下のものです。授業は当該学部・学科の教室で行われる場合があります。

学部学科が教養教育に開放する授業科目

| 授業科目 | 担当教員 | 学期 | 曜日 | 講時 | 開設学部 | 教養教育として認定される科目分類 | 専門科目として認定される学部・学科 |
|-----------|-------|----|----|------|------|------------------|-------------------|
| (歯)口腔と健康 | 北畑 洋 | 前 | 金 | 3. 4 | 歯 | 医療基盤教育科目 | 歯学部・歯学科※ |
| (歯)医療情報処理 | 河野文昭 | 前 | 金 | 5. 6 | 歯 | 基礎数学（歯学科） | 歯学部・口腔保健学科※ |
| | | | | | | 医療基盤教育科目（歯学部以外） | |
| (歯)歯学概論 | 河野文昭他 | 後 | 木 | 1. 2 | 歯 | 医療基盤教育科目 | 歯学部・歯学科※ |

※専門科目として認定される学部・学科では、専門科目として履修登録する必要がありますので、注意してください。

III. 特別な単位の認定

1. 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短期大学等における既修得単位のうち、30 単位まで教養教育の単位として認定されることがあります。なお、徳島大学の卒業生・中途退学者に対しては、各学部で定めた単位を上限として既修得単位が認められることがあります。また、一部の学部・学科では、専門科目の既修得単位についても認めていますので、これらについては各学部の学務（教務）係で確認してください。

(1) 大学又は短期大学等を卒業あるいは中途退学した者で、新たに第 1 年次に入学した者

① 4 月 6 日(木) 18 時 10 分から教養教育 4 号館 202 講義室で説明会を開催します。説明会では具体的な単位認定の手続き・方法について説明しますので、必ず出席してください。なお、申請者は、既

修得単位が確定する5月中旬～6月中旬までは、各学部・学科の履修要件に沿って通常の受講手続きを行い、授業を受けてください。単位認定の結果により、履修を取りやめることができますが、その際は必ず教育支援課教養教育係へ申し出てください。

- ② 申請書以外に、単位を取得した大学・短期大学等の成績証明書や認定を受けようとする大学・短期大学における授業内容が判る資料（シラバスなど）が必要となります。申請前に予め用意し、可能であれば説明会の際に持参してください。

なお、大学によっては教養教育科目と基礎科目を分離していない場合があります。また、認定の過程で専門科目として取得した単位が教養教育の単位として認定される場合もあります。成績証明書やシラバス（コピー可/シラバスの表紙・目次も添付すること）などについては、教養教育科目（基礎科目を含む）・専門科目の両方について準備しておくといでしょう。

- ③ 申請締切後に関係委員が提出書類を審査します。シラバス（コピー可）などが入手できない場合には、申請者との面接等により各申請科目の授業内容を確認することになります。
- ④ 既修得単位の認定は、教養教育院教授会での予備審査の後、各学部の教授会（5～6月）で最終的に認定され、その後申請者へ通知されます。

関係する事柄については別途掲示によりお知らせしますので注意しておいてください。

- (2) 編入学した者……入学前に当該学部から案内があります。
- (3) 補欠入学した者……当該学部の学務（教務）係へ問い合わせてください。
- (4) 本学の学生で転学部、転学科を許可された者……当該学部の学務（教務）係へ問い合わせてください。

2. 「放送大学」の修得単位の認定

放送大学の開設科目（徳島大学が指定した科目）は、教養教育科目（外国語の科目を含む。）として認定することができます。ただし、事前に本学を通して放送大学へ受講申請をする必要があります。「放送大学」・「eラーニング科目（知プラe）（20ページ参照）」により修得できる単位数は合計で8単位までです。

徳島大学が指定する開設科目、受講手続き等の詳細については、教育支援課教養教育係に相談してください。

3. 外国語技能検定試験による単位の認定

外国語技能検定試験の成績により外国語の科目の単位が下記のように認定されます。該当する検定試験に合格、あるいは所定の得点に達した場合に、単位の認定を希望するものは速やかに教育支援課教養教育係まで申し出てください。ただし、これらの検定試験による単位の認定は1つの外国語につき6単位までとします。なお、入学前に受験した試験の結果得られた級及び得点についても単位が認定されません。

(1) 英語

- ① 実用英語技能検定（英検）（公益財団法人 日本英語検定協会）

準1級：基盤英語2単位 主題別英語2単位

（既に他の英語の技能検定試験で基盤英語2単位 主題別英語2単位を認定されている場合は認められません）

1級：基盤英語2単位 主題別英語2単位 発信型英語2単位

（既に他の英語の技能検定試験で基盤英語2単位 主題別英語2単位を認定されている場合は発信型英語2単位の認定）

- ② TOEFL（国際教育交換協議会）

iBT 80～99点 PBT, ITP (LEVEL 1 TOEFL) 550～597点：

基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位 (既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は認められません)

iBT 100 点以上 PBT, ITP (LEVEL 1 TOEFL) 600 点以上 :

基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位 発信型英語 2 単位 (既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は発信型英語 2 単位の認定)

(注) (iBT=Internet-based Test PBT=Paper-based Test ITP=Institutional Testing Program)

③ TOEIC (一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会)

730 ~ 869 点 : 基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位

(既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は認められません)

870 点以上 : 基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位 発信型英語 2 単位

(既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は発信型英語 2 単位の認定)

(注) 新入生は全員、学内で実施される TOEIC-IP または、TOEFL ITP による英語統一試験を

2 回 (医学部医学科は 1 回) 受験します。第 1 回目の試験は、平成 29 年 6 月 24 日(土)に実施します。なお、病気などやむをえない理由で欠席した者に限り、7 月 15 日(土)に試験を受験することができます。また、第 2 回目の試験は、2 年生の前期に実施する予定です。

④ IELTS (Academic) (公益財団法人 日本英語検定協会, プリティッシュ・カウンシル)

6 ~ 6.5 : 基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位

(既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は認められません)

7 以上 : 基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位 発信型英語 2 単位

(既に他の英語の技能検定試験で基盤英語 2 単位 主題別英語 2 単位を認定されている場合は発信型英語 2 単位の認定)

(2) ドイツ語

① ドイツ語技能検定試験 (独検) (公益財団法人 ドイツ語学文学振興会)

5 級 : ドイツ語入門 1 単位

4 級 : ドイツ語入門 2 単位

3 級以上 : ドイツ語入門 2 単位及びドイツ語初級 2 単位

(3) フランス語

① 実用フランス語技能検定試験 (仏検) (公益財団法人 フランス語教育振興協会)

4 級 : フランス語入門 2 単位

3 級以上 : フランス語入門 2 単位及びフランス語初級 2 単位

(4) 中国語

① 中国語検定試験 (日本中国語検定協会)

準 4 級 : 中国語入門 2 単位

4 級 : 中国語入門 2 単位及び中国語初級 2 単位

3 級以上 : 4 級の規定に準じる

② 中国政府漢語水平考試 (HSK) (中国国家漢語水平考試委員会)

1 級 : 中国語入門 2 単位

2 級 : 中国語入門 2 単位及び中国語初級 2 単位

3 級以上 : 2 級の規定に準じる

2009 年以前の旧 HSK において取得した級については次のとおり認定する。

基礎 1 級 : 中国語入門 2 単位

基礎 2 級：中国語入門 2 単位及び中国語初級 2 単位
 基礎 3 級， 初中等 3 級以上：基礎 2 級の規定に準じる

4. 留学による単位の認定

徳島大学では，下記の大学に短期留学した場合は，所定の条件のもとで，教養教育の外国語教育科目の単位が認定されます。単位認定を希望する学生は必ず事前に教育支援課教養教育係に相談してください。

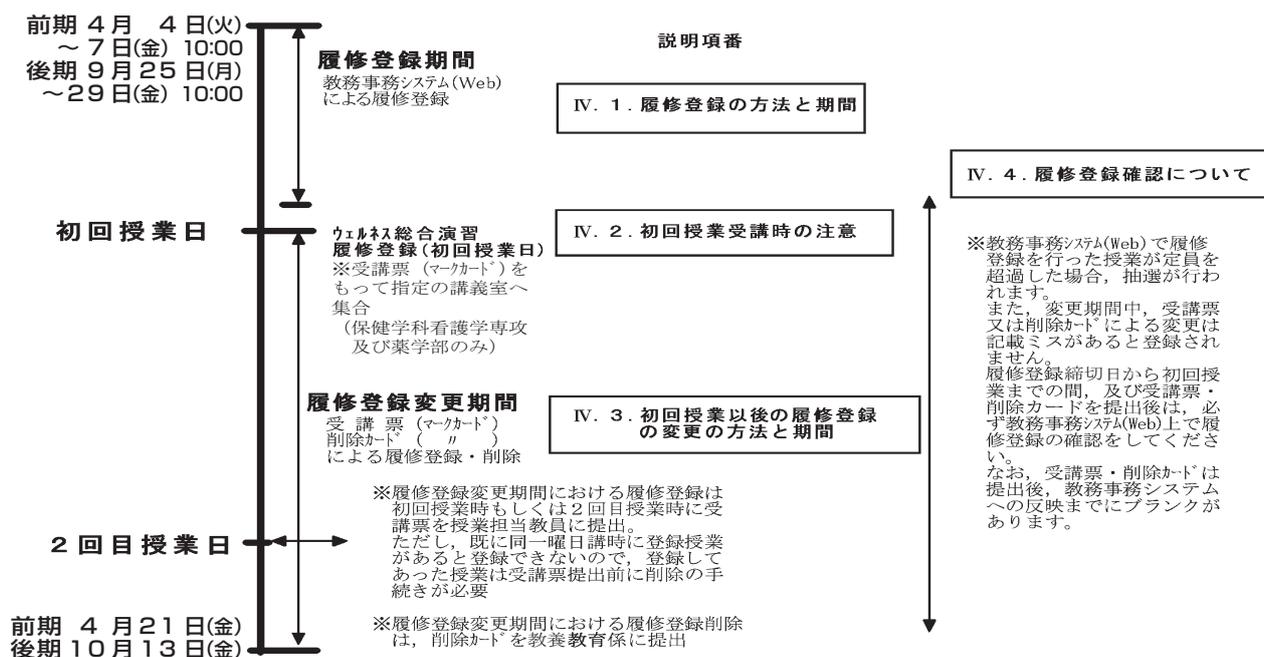
| 外国語 | 指定研修先 | 備考 |
|-------|---|----|
| 英語 | 南イリノイ州立大学カーボンデール校 オークランド大学 モナシュ大学 | |
| 中国語 | 復旦大学 武漢大学 吉林大学 南京大学 開南大学 | |
| フランス語 | グルノーブル第三大学 ボルドー第三大学 | |

IV. 授業の履修手続き

教養教育授業の履修計画の立案に当たっては，「教養教育履修の手引」及び「教養教育授業概要（シラバス）」を熟読するとともに「教養教育時間割」を参照し，『徳島大学教養教育 2017 学びのファーストステップ』に従って，立案してください。この場合，各学部・学科によって，卒業に必要な単位数が異なりますので，履修要件を満たすように計画してください。

授業の履修手続きの流れは，次の図（教養教育の履修登録手続き）のとおりです。

教養教育の履修登録手続き



1. 履修登録の方法と期間

教養教育の科目を履修するためには、履修しなければならない科目、履修したい科目を登録することが必要です。『徳島大学教養教育 2017 学びのファーストステップ』の「履修登録の手順」に従って、登録してください。

(1) 履修登録の方法

履修登録は、パソコンやタブレット等を使用して教務事務システム（Web）で登録します。^{（*注1・2）}
履修登録期間中は、教務事務システム（Web）で登録・削除を自由にできますが、履修登録期間終了以降の履修登録は受講票（マークカード）のみとなります。^{（*注3）}

以下の科目は、同時限に第1希望から第3希望まで履修登録できます。

- ・一般教養教育科目群
- ・グローバル化教育科目群
- ・イノベーション教育科目群
- ・汎用的技能教育科目群
- ・地域科学教育科目群
- ・医療基盤教育科目群
- ・外国語教育科目群（英語）

（SIH 道場、情報科学を除く）

① ウェルネス総合演習

一部の学部学科を除き、教務事務システム（Web）で登録します。

以下の学部学科は、受講票（マークカード）を初回授業時に担当教員に提出することにより、履修登録します。教務事務システム（Web）では履修登録できません。

医学部保健学科看護学専攻
薬学部

② eラーニング科目（知プラe）

履修登録期間中に教務事務システム（Web）で登録します。

*注1：学生用ユーザー ID について

学生用ユーザー ID は、学内・学外で利用できます。オリエンテーション時に配付した学生用ユーザー ID は、初期パスワードが設定されており、有効期限が4月中となっていますので、必ず期間内に教務事務システム（Web）で変更してください。

なお、変更後のパスワードの有効期間は365日ですので、継続して利用する場合は、その都度教務事務システム（Web）で変更する必要があります。

*注2：再履修の履修登録について

再受講となった科目を受講する場合の履修登録は教務事務システム（Web）を使用せず、初回授業時に担当教員へ受講票（マークカード）を提出することにより、登録してください。（Webでの履修登録はできません）

*注3：履修登録のマークカードについて

履修登録に使用するマークカードは、履修登録用の受講票（マークカード）と履修削除用の削除カード（マークカード）の2種類あります。これらのマークカードは、教養教育4号館1階の教育支援課にあります。

(2) 履修登録の期間

前期授業履修登録期間 平成29年4月 4日(火)～4月 7日(金) 10:00

後期授業履修登録期間 平成29年9月25日(月)～9月29日(金) 10:00

① ウェルネス総合演習は初回授業時、教員の指示により、受講票（マークカード）を授業担当教員へ提出します。

② ①の科目を除き、全ての科目を履修登録期間中に登録してください。

2. 初回授業受講時の注意

履修登録数が受講定員を超えた場合は、コンピュータにより抽選します。抽選は、履修登録最終日に行い、17時以降に抽選結果を発表します。抽選結果は教務事務システムに反映されるので抽選がある受講科目を登録した学生は、必ず抽選結果を確認するようにしてください。

また、教養教育4号館1階の掲示板に履修登録の誤り等の情報もお知らせしているのので、必ず掲示も併せて確認してください。

なお、抽選にはずれた履修登録は、既に登録取り消しの処理が行われているので、削除カード（マークカード）を提出する必要はありません。

（抽選にはずれた場合）

抽選にはずれた場合は、次に希望する授業の受講票（マークカード）を準備し、授業開始時に担当教員に受講票を提出することにより、履修登録します。その際、既に抽選が行われた授業には受講票の提出はできません。また、受講票が提出できても授業開始後10分以内に受講定員を超過した場合は、提出された受講票の中で再度抽選が行われます。

再度抽選にはずれた場合は、同様に受講票を準備して次に希望する授業へ行き、「再度抽選にはずれた」旨を申し出て、すみやかに担当教員に受講票を提出してください。（その際、受講票の提出は、授業開始時刻を超過していても差し支えありません。）

なお、教養教育掲示板に、各授業の履修登録状況一覧表を掲示しているのので、確認の上、次に受講票を提出する授業を決めてください。

また、初回授業時は担当教員が教室の黒板に、担当授業の履修登録追加可能な人数を板書することとなっていますので、教室へ行ったときに状況を把握することができます。

(1) ウェルネス総合演習の場合

初回授業は、指定の講義室（シラバスに記載）に集合します。

総合科学部は受講希望に偏りがあった場合、講時を移動することがあります。

医学部保健学科看護学専攻及び薬学部は、履修登録数が受講定員を超えた場合は、初回授業時に抽選を行います。

また、通常の授業の受講に特別な事情で不安がある場合（肢体不自由、身体衰弱、退院後間もない、病氣、けがの場合など）は、担当教員に相談してください。

受講票（マークカード）の記入については、「3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間」の記載例をご覧ください。

(2) 外国語教育科目の場合

外国語教育科目は、学部・学科により、時間割の指定があります。時間割の指定があっても複数の選択肢がある場合は、定員超過による受講調整（抽選）が行われる場合があります。受講調整が行われた場合は、履修登録最終日の17時に、結果を教養教育4号館1階の掲示板に掲示します。

移動先を指示していますので、授業開始時に移動先の担当教員に受講票（マークカード）を提出してください。なお、抽選にはずれた授業の削除カード（マークカード）は、提出不要です。

再履修者、編入学者はクラス指定にかかわらず、履修登録することができますが、履修登録は授業当日、授業の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。ただし、抽選が行われた授業には履修登録できません。

(3) eラーニング科目（知プラe）の場合

eラーニング科目（知プラe）は授業開始前に対面でガイダンスを行います。ガイダンスの日程は掲示板に掲示しますので、必ず確認して出席してください。

3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間

初回授業以後の履修登録の変更については、次の(1)～(2)のとおりです。

なお、変更期間中の変更でも、各教員が授業計画に従い授業進行している最中の変更となりますので、教員の下承を得られたもの（受講票が受理されたもの）のみ、登録されます。（教員に提出しても受理されない場合があります。）

(1) 変更の方法

履修登録の変更は

| | | |
|--|---|---|
| 受講の許可を受けたい授業： 受講票（マークカード）を 授業担当教員に提出 | + | 履修登録を取り消したい授業： 削除カード（マークカード）を 教育支援課教養教育係へ提出 |
|--|---|---|

の一組の手続きが必要です。（「登録」と「削除」の2枚のマークカードが必要です。）

注意点は次のとおりです。

- ① 例年、受講票、削除カードのマークミスが多くあります。

提出前の確認、また、提出後に変更が反映されているかを必ず確認してください。（少なくとも翌々日には教務事務システム（Web）へ反映されます。）

- ② 抽選が実施された授業への受講票の提出はできません。

抽選後、履修の取り消し等で、受講定員より受講者が少なくなる場合がありますが、その場合も不可です。

- ③ 履修登録変更のための受講票提出先は、授業担当教員のみです。

- ④ 教養教育、専門教育に関わらず同じ講時に複数の登録はできません。授業担当教員が受講票を受理した場合は、**速やかに**同じ講時に登録済みの授業の削除カード（マークカード）を教育支援課教養教育係へ提出してください。（専門科目は教務事務システム（Web）で履修取り消しをしてください。）

* 受講票を提出し、同一曜日講時に既に登録があった場合、教務事務システム（Web）へ反映された時点で、既登録済みの履修登録と新規履修登録の両方が無効となるので注意してください。

なお、同一曜日講時の履修登録で無効となった履修登録は、教養教育又は専門教育で同一曜日講時の授業の一方を削除すると、片方の授業は自動的に履修可となります。

(2) 履修登録変更期間

履修登録変更期間は次のとおりです。

前期履修登録変更期間 平成29年 4月10日(月)～平成29年 4月21日(金)

後期履修登録変更期間 平成29年 10月 2日(月)～平成29年 10月13日(金)

(ただし、火曜日授業の履修登録変更締切は10月17日)

注意事項

* 変更期間は設けていますが、非常勤講師等、授業日以外に手渡しできる機会の無い教員がいます。受講票は必ず授業時に渡すようにしてください。

教養教育 受講票

| 区分 | 学部 | 学 生 番 号 | | | | | | | | | | 時 間 割 コー ド | | | | | | | | | |
|----------|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|--|--|--|--|
| 登録 削除 | 総科 医 歯 薬 理工 理工夜 生資 工産 工夜 | 7 | 0 | 1 | 7 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 8 | 0 | 1 | | | | | |
| | | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | | | | |
| | | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | | | | |
| | | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | | | | |
| | | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | | | | |
| | | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | | | | |
| | | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | | | | |
| | | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | | | | |
| | | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | | | | |
| | | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | | | | |
| [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | | | | | | |

| 教 養 教 育 受 講 票 | |
|-------------------------|-------|
| 平成 29 年度 前期 月 曜日 / 2 講時 | |
| 授業科目 | 物理学 |
| 担当教員 | 齊藤 教員 |
| 〈生物資源産業学部〉 / 年 | |
| 氏 名 | 徳島 花子 |

マーク例
 良好例 [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [0]
 悪し例 [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [0]
 マークは鉛筆HBを使用してください。

※同一講時に複数授業の登録はできません。
 ※誤記・同一講時重複などは無効として処理されます。
 ※教務事務システム(web)への反映を必ず確認してください。

教養教育 受講削除カード

| 区分 | 学部 | 学 生 番 号 | | | | | | | | | | 時 間 割 コー ド | | | | | | | | | |
|-----------|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|--|--|--|--|
| 削除 カード | 総科 医 歯 薬 理工 理工夜 生資 工産 工夜 | 1 | 0 | 1 | 7 | 0 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 8 | 0 | 1 | | | | | |
| | | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | [1] | | | | |
| | | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | [2] | | | | |
| | | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | [3] | | | | |
| | | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | [4] | | | | |
| | | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | [5] | | | | |
| | | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | [6] | | | | |
| | | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | [7] | | | | |
| | | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | [8] | | | | |
| | | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | [9] | | | | |
| [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | | | | | | |

| 教 養 教 育 受 講 削 除 カ ー ド | |
|--------------------------------|-------|
| 平成 29 年度 前期 月 曜日 / 2 講時 | |
| 授業科目 | 物理学 |
| 担当教員 | 齊藤 教員 |
| 社会総合科学科 総合科学部 専攻 / 年 コース | |
| 氏 名 | 徳島 花子 |

マーク例
 良好例 [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [0]
 悪し例 [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [0]
 マークは鉛筆HBを使用してください。

※マークミス等がないように必ずチェックしてください。
 ※教務事務システム(web)へ反映のない登録は削除できません。
 ※教務事務システム(web)への反映を必ず確認してください。

4. 履修登録確認について

履修登録の確認は、教務事務システム（Web）の履修登録画面で随時見ることができます。また、受講調整や受講票・削除カードの提出などで履修登録の変更を行った場合は、必ずその都度確認してください。履修登録されていない科目は、授業を受けても単位を修得することはできません。

V. 授業を受ける

1. 授業の場所

教養教育の授業は、教養教育4号館・5号館・6号館、総合科学部1号館・2号館・3号館及び理工学部共通講義棟（K棟）の各講義室で行われます。ただし、一部の授業は、所属学部で行われるものもありますので、「教養教育時間割」で確認してください。なお、情報科学は情報センターで、ウェルネス総合演習は総合グラウンド及び常三島体育館でも実施されます。（この手引のp.76～p.79に配置図がありますので参照してください。）

2. 授業の時間帯

教養教育の授業時間は、1 講時を 45 分とし、原則として 2 講時 90 分を 1 コマ（ひとまとまり）として実施されます。なお、各講時の授業時間帯は次のとおりです。

講時別授業時間帯

| 講 時 | 時 間 帯 | 備 考 |
|------------|---|----------|
| 第 1・2 講時 | 8 時 40 分～ 9 時 25 分 9 時 25 分～10 時 10 分 | 昼間コース授業 |
| 第 3・4 講時 | 10 時 25 分～11 時 10 分 11 時 10 分～11 時 55 分 | ” |
| 第 5・6 講時 | 12 時 50 分～13 時 35 分 13 時 35 分～14 時 20 分 | ” |
| 第 7・8 講時 | 14 時 35 分～15 時 20 分 15 時 20 分～16 時 05 分 | ” |
| 第 9・10 講時 | 16 時 20 分～17 時 05 分 17 時 05 分～17 時 50 分 | ” |
| 第 11・12 講時 | 18 時 00 分～18 時 45 分 18 時 45 分～19 時 30 分 | 夜間主コース授業 |
| 第 13・14 講時 | 19 時 40 分～20 時 25 分 20 時 25 分～21 時 10 分 | ” |

※夜間授業（第 11 講時～14 講時）は、理工学部夜間主コースの学生しか受講できません。

3. 授業のクラス分け

クラス分けは次のとおりです。なお、各授業の具体的なクラス分けは、オリエンテーション時に配付の「教養教育時間割クラス分け一覧」のとおりです。教養教育と専門教育でのクラス分けが異なる場合がありますので、履修登録時にクラスを間違わないように注意してください。

| | |
|----------------|---|
| 【一般教養教育科目群】 | } …… クラスの指定はなく、各自が履修したい授業を自由に選ぶことができます。受講定員が定められており、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選等により受講者の調整を行います。 |
| 【グローバル化教育科目群】 | |
| 【イノベーション教育科目群】 | |
| 【地域科学教育科目群】 | |
| 【医療基盤教育科目群】 | |
| 【基礎基盤教育科目群】 | } …… 時間割に記載のとおり、受講対象学部・学科が指定されています。 |
| 【汎用的技能教育科目群】 | |
| 【外国語教育科目群】 | |

留学生対象

【日本語、日本事情】 …… 日本語については、漢字圏出身者のクラスと非漢字圏出身者のクラスが用意されています。

4. 授業を受ける態度

皆さんは大学生であるといえども、広い意味では社会人でもあります。授業を受けるにもマナーが必要です。次のことには特に注意してください。

- ・遅刻をしない
- ・飲食しない
- ・携帯電話の電源は切っておく
- ・私語はしない
- ・その他、迷惑になることをしない
- ・授業中に勝手に出入りしない

5. オフィス・アワーについて

シラバスに記載されている「オフィスアワー」は、授業担当教員がみなさんからの質問に答えるため

に、研究室に在室している時間帯です。遠慮せずに教員の研究室を訪ねてください。本学の専任教員でない非常勤の教員については、非常勤講師控室（教養教育4号館1階）などで対応します。

6. 学習支援室の利用

1. 総合科学部3号館1階にスタジオがあります。スタジオは全学の学生が自習のために利用できます。スタジオの利用時間は、土日祝日、授業等での使用時を除く21時30分までです。スタジオの一角に教養教育院学習支援室があります。
2. 学習支援室には、さまざまな科目の教科書、参考書、辞典などを配架した書架と自習用スペースがあります。活用してください。

7. 気象警報等が徳島県徳島市に発表された場合の授業の休講

1. 昼間に開講する授業については、午前7時に「暴風警報と大雨警報」、「暴風警報と洪水警報」、「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表中の場合は、午前の授業を休講とします。午前11時に警報又は特別警報が発表中の場合は、午後の授業を休講とします。
2. 夜間に開講する授業については、午後4時に警報又は特別警報が発表中の場合は、すべて授業を休講とします。
3. 授業開始後に警報が発表された場合は、次の時限以降の授業を休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は、直ちに休講とします。

VI. 試験及び成績の評価

1. 受験資格

試験は原則として前期・後期の学期末に行われ、授業時間数の3分の2以上出席していなければ、学期末試験の受験資格を失います。なお、試験を欠席した者で、追試験対象者以外は再受講となります。

2. 学期末試験の期間

試験期間は次のとおりです。

学期末試験は通常の授業と同じ曜日・講時に行われます。

前期試験及び総括授業 平成29年7月21日(金)～8月3日(木)

後期試験及び総括授業 平成30年1月29日(月)～2月9日(金)

3. 試験の受験心得

学期末試験をはじめとする、すべての試験の受験に当たっては、次のことを厳守しなければなりません。

- (1) 試験受験時は「学生証」を机の上に置いてください。
- (2) 学生証を所持していない学生は、教育支援課教養教育係において、「仮学生証」の交付を受けてください。
- (3) 「学生証」、「仮学生証」のどちらも所持しない者は試験を受けることはできません。
- (4) 携帯電話の使用は認めません。（時計は全教室に設置してあります。）
- (5) 遅刻の限度は試験開始後20分です。これを超えた者は受験資格を失います。
- (6) 退出する場合は試験開始後20分を待たなければなりません。

4. 成績の評価

- (1) 成績の評価は、試験、レポート、学習状況などによって行われます。

(2) 成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格となり、60点未満は不合格となります。

なお、平成27年度入学生より成績証明書には、90点以上が秀、80点～89点が優、70点～79点が良い、60点～69点が可として、記載されます。単位認定されたもの（入学前の既修得単位、放送大学の修得単位、外国語技能検定試験による単位等）については、認と記載されます。

5. 成績に関する疑義

成績について疑義がある場合は、成績通知完了日から1週間以内に教育支援課教養教育係又は授業担当者に申し出ることができます。調査・検討した結果は、おおよそ2週間以内に通知します。

6. 不正行為について

学期末試験をはじめとする単位認定に関する試験で不正行為をした者は、徳島大学学則により相応の懲戒処分を受けるとともに、不正行為があった学期中に履修した全科目（教養教育科目及び専門教育科目）の成績が取り消されます。

もちろん、取り消された科目は、再受講（改めて初めから受講すること）することとなります。

(1) 不正行為とは、次のとおりです。

- ① カンニング（カンニングペーパー、IT機器、参考書又は他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。また、答えを教えたり、カンニングに協力したりすること。
- ② 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- ③ 試験場において、試験監督者等の指示に従わないこと。
- ④ 他人のレポートを模写して、又はインターネット上のホームページや著書、論文等から他人の意見や図表等を盗用、剽窃して単位認定に係るレポートを作成すること。
- ⑤ 単位認定に係るレポートや小テスト等の代筆を行うこと及び代筆を依頼すること。
- ⑥ その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(2) その他、不正行為と見なされるものとして、次のようなこともあります。これも、上記に準じて扱われますので注意してください。

教養教育院では、授業への取組態度を含め総合的に成績評価を行っていただくよう各教員にお願いしております。その一つとして、小レポート等の提出を毎時間求める授業があります。このような授業にて代筆を行うことは「替え玉受験」と同じです。また、代返（他人がなりすまして出席を装う行為で、他人に学生証を渡しカードリーダーに通すことも含みます）も同等に扱われる場合があります。

7. 成績の通知

(1) 履修科目の成績は、次のとおり教務事務システム（Web）の成績照会画面でお知らせしますので、必ず確認してください。

前期試験成績の通知完了日 平成29年8月24日(木)

後期試験成績の通知完了日 平成30年2月16日(金)

(2) 教務事務システム（Web）による成績通知の表示内容は、次のとおりです。

60点以上の点数記載の科目……合格

不と記載されている科目……不合格につき「再試験」を受験できる科目

(不) " ……不合格につき再受講（改めて初めから授業を受講）となる科目

欠 " ……試験を欠席した科目（追試験対象者以外は再受講となる）

(欠) " ……受験資格（2/3以上の授業出席）がない科目（再受講となる）

8. 追試験

(1) 下記①～③の理由により学期末試験を受験できなかった者は、欠席届及び必要な証明書類を添えて

「追試験」の実施を願い出ることができます。ただし、授業への規定出席日数が不足する者はこの対象にはなりません。

| 欠席理由 | | 必要な証明書類 |
|------|--|---|
| ① | 病気、ケガ | 医師の診断書 |
| ② | 本人の責に帰することのできない特別の事情 ・忌引(2親等内の親族に限る)※注1 ・公共交通機関の事故又は遅延 ・不慮の事故 | 会葬御礼の書面等 公共交通機関発行の事故(遅延)証明書 第三者の証明(交通事故の場合は事故証明書) |
| ③ | 教養教育院教授会が認めた行事・大会等への参加※注2 | 大会日程・参加者名簿等が記載されたプログラム |

注1 法事等事前に日程が決まっているようなものは原則認められません。

注2 大会参加前に教養教育係へ申し出なければなりません。

- (2) 追試験の願い出は、前項の事実を証明する証明書(医師の診断書など)に「学期末試験欠席届」を添えて、前期は8月8日(火)までに、後期は2月15日(木)までに教育支援課教養教育係へ申し出なければなりません。追試験の可否は教養教育院教授会で審議され、許可された者には許可書が交付されます。

なお、「学期末試験欠席届」の用紙は教育支援課教養教育係にあります。

- (3) 追試験の期間は次のとおりです。

- ・前期追試験期間 平成29年9月1日(金)～9月7日(木)
- ・後期追試験期間 平成30年2月26日(月)～3月2日(金)

- (4) 追試験を受験する場合は「追試験許可書」(教養教育院教授会押印のもの)を教育支援課教養教育係で受け取ってください。試験日等は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。なお、「追試験許可書」は、追試験の実施を授業担当教員に申し出の際に提出することとします。遅くとも試験開始時刻までには授業担当教員に提出してください。

- (5) 追試験の成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格となり、60点未満は不合格となります。不合格の場合は「再受講」となります。

9. 再試験

- (1) 学期末試験の成績が不合格となり、成績通知表に再試験の指示を示す「不」の標示が記載されている科目については、次の期間内に再試験を受験することができます。なお、授業によっては再試験が実施されないものもありますので「授業概要」の「再試験の有無」欄で十分確認してください。

- ・前期再試験期間 平成29年9月1日(金)～9月7日(木)
- ・後期再試験期間 平成30年2月26日(月)～3月2日(金)

- (2) 再試験の受験を希望する場合は、教育支援課教養教育係で「再試験願」用紙の交付を受け、再試験期間の3日前までに学生本人が再試験の実施を授業担当教員へ申し出て、「再試験願」を提出してください。

- (3) 再試験は、再試験期間の同じ曜日・講時に同じ講義室で行われます。通常の実施と異なる場合は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。

- (4) 再試験合格者の成績は、一律に60点となります。不合格の場合は「再受講」となります。

10. 再履修について(特に基礎基盤教育科目群と外国語教育科目群)

再受講と判定された科目は、次の学期以降に、もう一度履修登録からやり直す必要があります。これを再履修と呼んでいます。再履修となった場合、学年が上になるに従って、自分が所属する学部学科の専門の授業履修の関係で、受講上制約が生じる可能性があります。再履修となった場合は、履修登録の際に、必ず授業担当の教員に申し出てください。

VII. 教養教育の授業に関する付随的な事項

1. Grade Point 評価

教養教育では、点数評価をもとに、Grade Point (GP) 評価を行っています。GP 評価とは1から5までの数字を用いた評価です。GP の計算方式は以下のようになります。

点数が60点以上の場合

$$GP = (\text{点数評価} - 50) / 10$$

点数が60点に満たない場合

$$GP = 0$$

したがって、100点なら GP = 5.0, 80点なら GP = 3.0, 60点なら GP = 1.0 となります。

GP によって2つの平均値を計算することができます。個人の成績の平均値 (GPA) とクラスの成績の平均値 (GPC) です。

$$GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の総和} / (\text{履修登録した単位数の合計})$$

$$GPC = \text{履修登録した受講者の GP の総和} / (\text{履修登録した受講者数の合計})$$

GPA を用いて、教養教育では各学部・専攻ごとにもっとも点数の高かった学生を「教養教育優秀学生賞」として表彰します。履修登録した科目で単位をとれなかった場合 (不合格や試験の欠席など)、GP は0点と計算されます。成績評価が「認定」の科目は、GP の対象外となっています。授業計画を立てる際は十分気をつけてください。

【「徳島大学標準 GPA」について】

徳島大学では、平成27年度入学生から、主に対外的に用いる GPA として、国際的に用いられる「標準 GPA」を採用する場合があります。

「標準 GP」の換算式

| | | |
|-------------|---|---|
| 90点以上 | = | 4 |
| 80点以上 90点未満 | = | 3 |
| 70点以上 80点未満 | = | 2 |
| 60点以上 70点未満 | = | 1 |
| 60点未満 | = | 0 |

- ・標準 GPA (Grade Point Average) : 学生が取得した科目の成績を集約した値

$$\text{標準 GPA} = \frac{(\text{評価を受けた各授業科目で得た標準 GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{ の合計}}{\text{評価を受けた各授業の単位数の合計}}$$

「標準 GPA」は、学期と通算について算定する。

※ 正規の手続きによる履修取り消し科目は含めない。

2. 科目ナンバリング

本学で実施される授業科目について、授業内容・レベル等に応じて特定のナンバーを付与しています。学修したい分野について、どの科目から学修していけば体系的に学修することができるか分かるようになり、計画的な学修を実現できるようになります。

科目ナンバリングは、次の項目により12桁で構成されています。

科目領域コード (4桁) + 科目番号 (5桁) + 学部・学科等コード (3桁)

また、各コードは次の要素から構成されています。

- ・科目領域コード → その科目が属する学問領域
- ・科目番号 → 1桁目：その科目のレベル
2～4桁目：授業方法

5 桁 目：授業を行う言語

・学部・学科等コード → その科目の学部・学科・専攻・コースなど

【例】

| | | | |
|---------------------------|----------------|------------------|-------------------------|
| PHYS | 1000J | LAS | |
| 科目領域コード (「物理」を表す) | 水準番号 (教養=1) | 言語コード (日本語=J) | 学部・学科等コード (教養教育=LAS) |
| 個別番号 (講義系は 000~399) | | | |

3. 授業参観について

教養教育院では、ファカルティ・ディベロップメント (FD) (教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組み) の一環として、教員同士がお互いに授業方法を学び合い、教養教育の一層の充実を図ることを目的として、「授業参観制度」があります。そのため、授業担当教員以外の教職員等が授業参観をすることがあります。

4. 教養教育の授業公開について

学習機会に対する地域住民の方々の多様なニーズに応じ、教養教育の一部の授業を一般市民・高校生にも公開しています。

学生と市民・高校生が同じ教室で学ぶことは、授業の活性化や世代間交流としても意義があり、学生にとっても市民・高校生にとっても良い刺激となるはずで

5. 理工学部 JABEE (日本技術者教育認定機構) について

理工学部の一部コースの学生にとっては教養教育科目すべてが JABEE 対応科目となります。JABEE 合格の単位認定要領は、下記のとおりとなっていますので、注意してください。

- (1) JABEE 合格の単位認定は、教養教育の成績が 60 点以上とします。
- (2) 教養教育の再試験で合格した場合は、JABEE も追加合格とします。ただし、再試験が行われない場合は、特に JABEE 用の再試験も行われません。
- (3) JABEE 基準 1 (学習・教育目標) との関連については、
 - 一般教養教育科目群：歴史と文化、人間と生命、生活と社会は、
 - (a) 「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」に、
 - 一般教養教育科目群：自然と技術、汎用的技能教育科目群：情報科学は、
 - (c) 「数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力」に、
 - 外国語教育科目群：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語 (留学生対象) は、
 - (f) 「日本語による理論的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」に、
 - 基礎基盤教育科目群：ウェルネス総合演習は、
 - (g) 「変化に対応した自主的、継続的に学習できる能力」に当たるものとします。

6. 学生による授業評価アンケートについて

教養教育院では、学期ごとに特定の科目群の授業を対象に、学生による授業評価アンケート (中間と期末の 2 回) をおこなっています。このアンケートの目的は授業の改善であり、アンケート結果に反映された受講者の意見は授業担当教員に示され、実際の改善のために役立てられます。学生の皆さんは、

授業への参加が毎回の受講や試験のみならず、授業評価とそのフィードバックも含めた全体であるとの認識を持ち、アンケートには率直かつ良識をもって回答してください。

また、授業評価アンケートで高い評価を得た授業の担当教員には、「教養教育賞（平成27年度までは「共通教育賞」）」が授与されますが、シラバスの「備考」欄に、当該授業の過去3年間の受賞があれば、担当教員の自己申告により記載されています。授業選択の際などに参考にしてください。

なお、各年度・学期の受賞者とその授業、それに対する学生のアンケート自由記述の一部については、以下のホームページで見ることができます。

<http://las.tokushima-u.com/campus-life/>

昨年度と今年度のアンケート対象の科目群は以下のとおりです。

平成28年度前期：一般教養教育科目群

グローバル化教育科目群

イノベーション教育科目群

後期：基礎基盤教育科目群

汎用的技能教育科目群

平成29年度前期：地域科学教育科目群（予定）

医療基盤教育科目群（予定）

外国語教育科目群（予定）

後期：一般教養教育科目群（予定）

グローバル化教育科目群（予定）

イノベーション教育科目群（予定）

7. 「eラーニング科目（知プラe）」について

「eラーニング科目（知プラe）」は「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施（知プラe）事業」に基づいて、四国の5大学（香川・徳島・鳴門教育・愛媛・高知）で平成27年度から共同実施しているものです。授業はeラーニングで行います。一部の科目は1単位になっていますので、履修の際には注意してください。

「放送大学」（7ページ参照）・「eラーニング科目（知プラe）」により修得できる単位数は合計で8単位までです。

受講に際しては、ガイダンス等を行いますので、掲示板を確認するようにしてください。

第3章

学部・学科別の履修方法

| | | |
|---|---|----|
| 1 | 総合科学部 | 22 |
| 2 | 医学部 | 24 |
| | 1. 医学部医学科 | 24 |
| | 2. 医学部医科栄養学科 | 26 |
| | 3. 医学部保健学科 | 28 |
| | ① 医学部保健学科看護学専攻 | 28 |
| | ② 医学部保健学科放射線技術科学専攻 | 30 |
| | ③ 医学部保健学科検査技術科学専攻 | 32 |
| 3 | 歯学部 | 34 |
| | 1. 歯学部歯学科 | 34 |
| | 2. 歯学部口腔保健学科 | 36 |
| 4 | 薬学部 | 38 |
| 5 | 理工学部 | 40 |
| | 1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース, 応用理数コース | 40 |
| | 2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース | 42 |
| 6 | 理工学部夜間主コース | 44 |
| | 1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース, 応用理数コース | 44 |
| | 2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース | 46 |
| 7 | 生物資源産業学部 | 48 |
| 8 | 留学生 | 50 |

第3章 学部・学科別の履修方法

1 総合科学部

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で35単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|--|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 2 | 10 | | |
| | 人間と生命 | | | 2 | | | |
| | 生活と社会 | | | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | 4 | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | 4 | 4 | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | 2 | 2 | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 2 | | |
| | 自然科学入門 | | | | | | |
| | 基礎数学 | | | | | | |
| | 基礎物理学 | | | | | | |
| | 基礎物理学実験 | | | | | | |
| | 基礎化学 | | | | | | |
| | 基礎化学実験 | | | | | | |
| | 基礎生物学 | | | | | | |
| | 基礎生物学実験 | | | | | | |
| | 基盤教育学 | | | | | | |
| | ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | | |
| | スタディスキル | | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 12 | | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | | |
| | | 発信型英語 | 4 | | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 4 | | | |
| | | ドイツ語初級 | | | | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | | |
| | | フランス語初級 | | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | | |
| 中国語初級 | | | | | | | |
| 合計 | | | 35 | | | | |

(1) 一般教養教育科目群 (10単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」の3つの授業科目のそれぞれの中から1授業題目(2単位)ずつ、「自然と技術」の授業科目の中から2授業題目(4単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) グローバル化教育科目群 (4単位)

グローバル化教育科目の中から2授業題目(4単位)を修得してください。

(3) イノベーション教育科目群 (2単位)

イノベーション教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(4) 基礎基盤教育科目群

- ① ウェルネス総合演習は2単位必修の科目です。総合科学部専門科目「総合科学の基礎E（心理学の基礎）」を受講する者は、後期水曜日5・6を受講してください。それ以外の者は、後期水曜日5・6又は後期水曜日7・8のどちらかを選択して履修登録を行ってください。履修登録数が受講定員を超えた場合は、コンピュータにより抽選します。
- ② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、一般教養教育科目の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。
- ③ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(5) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(6) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目（2単位）を修得してください。

(7) 外国語教育科目群

英語8単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から4単位の計12単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語（8単位）

基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）4単位の併せて8単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

総合科学部社会総合科学科の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。ドイツ語、フランス語及び中国語では学生番号等によるクラス分けがあり（「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照）、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」又は「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」及び「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスはA、B、Cなどと表記されています。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。ドイツ語と中国語は1単位ずつ、フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

2 医学部

1. 医学部医学科

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で45単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|
| | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 2 | 8 |
| | 人間と生命 | | | 2 | |
| | 生活と社会 | | | 2 | |
| | 自然と技術 | | | 2 | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | 2 | 2 |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 16 |
| | 自然科学入門 | 物理学 | | 2 | |
| | | 化学－化学のしくみ－ | | | |
| | | 生物学 －基礎からの細胞生物学－ | | | |
| | 基礎数学 | 微分積分学 | 1 | | |
| | | 統計学 | 1 | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | 1 | | |
| | | 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | 1 | | |
| | 基礎物理学実験 | 基礎物理学実験 | 2 | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学 | 1 | | |
| | | 生化学入門 | 1 | | |
| | 基礎化学実験 | | | | |
| | 基礎生物学 | 基礎生物学M | 1 | | |
| 生理学入門M | | 1 | | | |
| 基礎生物学実験 | 基礎生物化学実験M | 2 | | | |
| 基盤教育学 | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 5 |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | |
| | スタディスキル | | | 2 | |
| | コミュニケーション | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | | 0 |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | 医学心理行動学 | 2 | | 6 |
| | | 実験動物学・放射線概論 | 2 | | |
| | | 医と法・倫理 | 2 | | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 |
| | | 主題別英語 | 2 | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | |
| 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 45 | | |

(1) 一般教養教育科目群 (8単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から1授業題目(2単位)ずつ、合計4授業題目(8単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できま

せん。

(2) グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群（2単位）

グローバル化教育科目又はイノベーション教育科目の中から1授業題目（2単位）を修得してください。

(3) 基礎基盤教育科目群

① 基礎数学2単位，基礎物理学2単位，基礎物理学実験2単位，基礎化学2単位，基礎生物学2単位，基礎生物学実験2単位，ウェルネス総合演習2単位の合計14単位を修得してください。

② 高大接続科目の「数学」は，数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが，卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

③ 自然科学入門には「物理学」，「化学」，「生物学」の授業があります。この中から大学入試センター試験出題教科「理科②」で，受験の際に選択しなかった科目を1授業題目（2単位）修得してください。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら，身の回りの出来事を理解し，さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。

(4) 汎用的技能教育科目群

① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。

② 情報科学は2単位必修の科目で，クラス指定があります。

(5) 医療基盤教育科目群

医療基盤教育科目から3授業題目（6単位）を修得してください。

(6) 外国語教育科目群

英語6単位，英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，中国語）から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については，受講者の調整を行うため，クラス指定があるものがあります。

① 英語（6単位）

基盤英語（Bと略記）2単位，主題別英語（Tと略記）2単位，発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが，発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部医学科の履修パターン： 1年前期 B B 後期 T T C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで，Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし，履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして，ドイツ語，フランス語，中国語からいずれかひとつを選択し，「入門」を計2単位修得してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ，フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。クラスはA，B，Cなどと表記されています。なお，ドイツ語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは，1週間に指定された同じクラスで2回受講し，半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については，原則として，「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については，各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を，初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は，事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ，後期の「入門」を受講することはできません。

(7) その他

前期木・金曜日，後期水～金曜日を“蔵本 DAY”と称し，原則，蔵本キャンパスで受講し，科目終了後は Student Lab で医学科の研究室に滞在するなど，蔵本での活動に努めることを推奨しています。

2. 医学部医科栄養学科

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で43単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|-----------------------------|-----|----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 4 | 16 | |
| | 人間と生命 | | | 4 | | |
| | 生活と社会 | | | 4 | | |
| | 自然と技術 | | | 4 | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | 0 | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | 0 | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 14 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 統計学 | 2 | | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学Ⅰ・物理化学 (化学平衡と反応速度論) | 2 | | | |
| | | 基礎化学Ⅱ・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) | 2 | | | |
| | 基礎化学実験 | 基礎化学実験 | 2 | | | |
| | 基礎生物学 | 基礎生物学N | 2 | | | |
| | 基礎生物学実験 | 基礎生物学実験N | 2 | | | |
| | 基盤教育学 | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | | | 2 |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 43 | | | |

(1) 一般教養教育科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から2授業題目(4単位)ずつ、合計8授業題目(16単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群

① 基礎数学2単位、基礎化学4単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位、ウェルネス総合演習2単位の合計14単位を修得してください。

② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、一般教養教育科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

③ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、

さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(4) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目から1授業題目（2単位）を修得してください。または、地域志向科目として指定された授業題目から2単位を履修することで代えることができます。

(5) 外国語教育科目群

英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語（6単位）

基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部医科栄養学科の履修パターン：

| | | | | | | | | |
|------|---|---|----|---|------|---|----|---|
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | C | 後期 | T |
| 又は | | | | | | | | |
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | T | 後期 | C |

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位修得してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。

3. 医学部保健学科

① 医学部保健学科看護学専攻

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で35単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 4 | * |
| | 人間と生命 | | | 4 | * |
| | 生活と社会 | | | 4 | * |
| | 自然と技術 | | | 4 | * |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | * |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | * |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | |
| | 自然科学入門 | | | | |
| | 基礎数学 | | | | |
| | 基礎化学 | | | | |
| | 基礎化学実験 | | | | |
| | 基礎生物学 | | | | |
| | 基礎生物学実験 | | | | |
| | 基盤教育学 | | | | |
| | ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | | | * |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | |
| | スタディスキル | | | | * |
| | コミュニケーション | | | | * |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | * |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | |
| | | 主題別英語 | 2 | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | |
| 合計 | | | | 35 | |

*の中から6単位を選択

(1) 一般教養教育科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から2授業題目(4単位)ずつ、合計8授業題目(16単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群

- ① 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、一般教養教育科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。
- ② ウェルネス総合演習は、受講票(マークカード)を担当教員に提出することにより、履修登録します。教務事務システム(Web)での履修登録はできません。
- ③ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、

さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(4) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目（2単位）を修得してください。または、地域志向科目として指定された授業題目から2単位を履修することで代えることができます。

(5) 外国語教育科目群

英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語（6単位）

基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科看護学専攻の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
又は

1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位修得してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。

(6) その他

一般教養教育科目群、グローバル化教育科目群、イノベーション教育科目群、基礎基盤教育科目群のウェルネス総合演習、汎用的技能教育科目群のスタディスキル及びコミュニケーション、医療基盤教育科目群の中から、6単位を選択し履修してください。ただし、各科目2単位を上限とします。

② 医学部保健学科放射線技術科学専攻

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で37単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|
| | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 2 | 12 |
| | 人間と生命 | | | 4 | |
| | 生活と社会 | | | 2 | |
| | 自然と技術 | | | 4 | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 10 |
| | 自然科学入門 | | | | |
| | 基礎数学 | 微分積分学 | 2 | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学・力学概論 | 2 | | |
| | 基礎化学 | 化学の基礎 | 2 | | |
| | 基礎生物学 | 基礎生物学H | 2 | | |
| | 基盤教育学 | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | |
| | スタディスキル | | | | |
| | コミュニケーション | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | 2 | 2 |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 |
| | | 主題別英語 | 2 | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | |
| 合計 | | | 37 | | |

(1) 一般教養教育科目群 (12 単位)

「歴史と文化」及び「生活と社会」の2つの授業科目のそれぞれの中から1授業題目(2単位)ずつ、「人間と生命」及び「自然と技術」の2つの授業科目のそれぞれの中から2授業題目(4単位)ずつ、合計6授業題目(12単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群

グローバル化教育科目及びイノベーション教育科目の中で指定された授業題目の修得単位は、各2単位まで一般教養教育科目群に含めることができます。指定授業題目は、教養教育時間割を参照してください。

(3) 基礎基盤教育科目群 (10 単位)

① 基礎数学2単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位、基礎生物学2単位、ウェルネス総合演習2単位の合計10単位を修得してください。

② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら, 身の回りの出来事を理解し, さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(4) 汎用的技能教育科目群

① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。

② 情報科学は2単位必修の科目で, クラス指定があります。

(5) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。または, 地域志向科目として指定された授業題目から2単位を履修することで代えることができます。

(6) 医療基盤教育科目群

医療基盤教育科目から1授業題目(2単位)を修得してください。

(7) 外国語教育科目群

英語6単位, 英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語)から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については, 受講者の調整を行うため, クラス指定があるものがあります。

① 英語(6単位)

基盤英語(Bと略記)2単位, 主題別英語(Tと略記)2単位, 発信型英語(Cと略記)2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが, 発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科放射線技術科学専攻の履修パターン

(年度によって履修可能なパターンが異なりますので, 時間割を確認してください。):

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T

又は

1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで, Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし, 履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語(2単位)

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして, ドイツ語, フランス語, 中国語からいずれかひとつを選択し, 「入門」を計2単位修得してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ, フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは, 1週間に指定された同じクラスで2回受講し, 半期(半年)で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については, 原則として, 「入門」で受講してください。なお, ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は, 原則, 後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については, 各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を, 初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は, 事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ, 後期の「入門」を受講することはできません。

③ 医学部保健学科検査技術科学専攻

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で35単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 2 | * |
| | 人間と生命 | | | 2 | * |
| | 生活と社会 | | | 2 | * |
| | 自然と技術 | | | 2 | * |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | * |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | * |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | |
| | 自然科学入門 | | | | |
| | 基礎数学 | | | | |
| | 基礎物理学 | | | | |
| | 基礎化学 | 化学の基礎 | 2 | | |
| | 基礎生物学 | 基礎生物学H | 2 | | |
| | 基盤教育学 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | |
| | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | |
| | スタディスキル | | | | * |
| 地域科学教育科目群 | コミュニケーション | | | | * |
| | 地域科学教育科目 | | | 2 | * |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | 臨床検査学入門 | 2 | | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | |
| | | 主題別英語 | 2 | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | |
| 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 35 | | |

*の中から6単位を選択

(1) 一般教養教育科目群 (8単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から1授業題目(2単位)ずつ、合計4授業題目(8単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群 (6単位)

① 基礎化学2単位、基礎生物学2単位、ウェルネス総合演習2単位の合計6単位を修得してください。

② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、一般教養教育科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

③ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(4) 医療基盤教育科目群（2単位）

医療基盤教育科目から1授業題目（2単位）を修得してください。

(5) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目（2単位）を修得してください。または、地域志向科目として指定された授業題目から2単位を履修することで代えることができます。

(6) 外国語教育科目群

英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語（6単位）

基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科検査技術科学専攻の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

| | | | | | | | | |
|------|---|---|----|---|------|---|----|---|
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | C | 後期 | T |
| 又は | | | | | | | | |
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | T | 後期 | C |

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位修得してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。

(7) その他

一般教養教育科目群、グローバル化教育科目、イノベーション教育科目群、汎用的技能教育科目群のスタディスキル及びコミュニケーション、地域科学教育科目群の中から、6単位を選択し履修してください。ただし、各科目2単位を上限とします。

3 歯学部

1. 歯学部歯学科

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で51単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 16 | 18 | |
| | 人間と生命 | | | | | |
| | 生活と社会 | 現代科学と研究倫理(知プラe) | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | 2 | 20 | |
| | 自然科学入門 | 物理学 | | | | |
| | | 化学ー化学のしくみー | | | | |
| | | 生物学ー基礎からの細胞生物学 | | | | |
| | 基礎数学 | 統計学 | | 1 | | |
| | | 微分積分学 | | 1 | | |
| | | 医療情報処理 | | 1 | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | | 1 | | |
| | | 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | | 1 | | |
| | 基礎物理学実験 | 基礎物理学実験 | | 2 | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学Ⅰ・物理化学(平衡と反応速度) | | 1 | | |
| | | 基礎化学ⅡA・有機化学(ライフサイエンスの基礎) | | 1 | | |
| | | 基礎化学ⅡB・有機化学(ライフサイエンスの基礎) | | 1 | | |
| | 基礎化学実験 | | | 2 | | |
| 基礎生物学 | 基礎生物学DⅠ | | 1 | | | |
| | 基礎生物学DⅡ | | 1 | | | |
| 基礎生物学実験 | 基礎生物学実験D | | 2 | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | | 2 | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | | 0 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 10 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 4 | | |
| | | ドイツ語初級 | | | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | | フランス語初級 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 中国語初級 | | | | | | |
| 合計 | | | 51 | | | |

- (1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群 (18 単位)
- ① 必修科目として、一般教養教育科目群の「生活と社会」から「現代科学と研究倫理」(知プラ e 科目)を修得してください。
 - ② 選択科目として、一般教養教育科目群、グローバル化教育科目群又はイノベーション教育科目群の中から 8 授業題目 (16 単位)を修得してください。
 - ③ ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位)しか修得できません。
 - ④ 地域志向科目を履修することが望ましい。
- (2) 基礎基盤教育科目群
- ① 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。この中から 1 授業題目 (2 単位)を修得してください。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～「大学としての学び」において、履修指導された授業 (高校での未履修科目)を履修してください。履修指導された授業以外を履修して修得した単位は卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
 - ② 基礎数学 3 単位, 基礎物理学 2 単位, 基礎物理学実験 2 単位, 基礎化学 3 単位, 基礎化学実験 2 単位, 基礎生物学 2 単位, 基礎生物学実験 2 単位, ウェルネス総合演習 2 単位の合計 20 単位を修得してください。
 - ③ 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
- (3) 汎用的技能教育科目群
- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は 1 単位必修の科目です。
 - ② 情報科学は 2 単位必修の科目で、クラス指定があります。
- (4) 外国語教育科目群
- 英語 6 単位, 英語以外の外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語) から 4 単位の計 10 単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。
- ① 英語 (6 単位)
 基盤英語 (B と略記) 2 単位, 主題別英語 (T と略記) 2 単位, 発信型英語 (C と略記) 2 単位の併せて 6 単位を修得してください。
 基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位ですが、発信型英語は 2 単位の授業です。
 次の履修パターンが用意されています。

歯学部歯学科の履修パターン： 1 年前期 B B 後期 T T 2 年前期 C

B の再受講は次の期の T を余分にとることで可能です。T の再受講は T で、C については原則 C を再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。B の履修は上限 2 単位です。

② 初修外国語 (4 単位)

ひとつの外国語を 4 単位のまとまりとして、ドイツ語, フランス語, 中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に 2 単位, 「初級」を後期に 2 単位の計 4 単位を修得してください。

「入門」及び「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは A, B, C などと表記されています。

「ペアのクラスで受講」とは、1 週間に指定された同じクラスで 2 回受講し、半期 (半年) で 2 単位を履修する方法です。ドイツ語と中国語は 1 単位ずつ、フランス語は 2 単位が一括で認定されません。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

2. 歯学部口腔保健学科

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で29単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|
| | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 16 | 16 |
| | 人間と生命 | | | | |
| | 生活と社会 | | | | |
| | 自然と技術 | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 2 |
| | 自然科学入門 | | | | |
| | 基礎数学 | | | | |
| | 基礎物理学 | | | | |
| | 基礎物理学実験 | | | | |
| | 基礎化学 | | | | |
| | 基礎化学実験 | | | | |
| | 基礎生物学 | | | | |
| | 基礎生物学実験 | | | | |
| | 基盤教育学 | | | | |
| | ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | |
| | スタディスキル | | | | |
| | コミュニケーション | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | | 0 |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 |
| | | 主題別英語 | 2 | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | |
| 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 29 | | |

(1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群 (16単位)

- ① 一般教養教育科目群, グローバル化教育科目群又はイノベーション教育科目群の中から8授業題目(16単位)を修得してください。
- ② ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は, 1授業題目(2単位)しか修得できません。
- ③ 地域志向科目を履修することが望ましい。
- ④ 社会福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者は, 「人間と生命」から「心理学概論」を履修することが望ましい。

(2) 基礎基盤教育科目群

- ① ウェルネス総合演習は2単位必修の科目です。
- ② 高大接続科目の「数学」は, 数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。修得した場合は, 一般教養教育科目の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら, 身の回りの出来事を理解し, さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で, クラス指定があります。

(4) 外国語教育科目群

英語6単位, 英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語)から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については, 受講者の調整を行うため, クラス指定があるものがあります。

① 英語(6単位)

基盤英語(Bと略記)2単位, 主題別英語(Tと略記)2単位, 発信型英語(Cと略記)2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが, 発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

歯学部口腔保健学科の履修パターン:

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで, Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし, 履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語(2単位)

ドイツ語, フランス語, 中国語からいずれかひとつを選択し, 「入門」を計2単位修得してください。中国語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ, フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは, 1週間に指定された同じクラスで2回受講し, 半期(半年)で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については, 原則として, 「入門」で受講してください。なお, ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は, 原則, 後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については, 各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を, 初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は, 事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ, 後期の「入門」を受講することはできません。

4 薬学部

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で49単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|---|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 4 | 16 | | |
| | 人間と生命 | | | 4 | | | |
| | 生活と社会 | | | 4 | | | |
| | 自然と技術 | | | 4 | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | * | 25 | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | * | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 25 | | |
| | 自然科学入門 | | | | | | |
| | 基礎数学 | 微分積分学 | 2 | | | | |
| | | 統計学 | 2 | | | | |
| | 基礎物理学 | | | 2 | | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学Ⅰ・電子と有機化学 | 2 | | | | |
| | | 基礎化学Ⅱ・原子と分子 | 2 | | | | |
| | | 基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎 | 2 | | | | |
| 基礎生物学 | | | 2 | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | | | | ** | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | | | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | | |
| | スタディスキル | | | | ** | | |
| | コミュニケーション | | | | ** | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | | * | | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | * | | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 1 | | | | |
| | | 主題別英語 | 1 | | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 4 | | 8 | |
| | | ドイツ語初級 | | | | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | | |
| | | フランス語初級 | | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | | |
| 中国語初級 | | | | | | | |
| 合計 | | | 49 | | | | |

*の中から6単位を選択

**の中から2単位を選択

(1) 一般教養教育科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から2授業題目(4単位)ずつを修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群

① 基礎数学4単位、基礎物理学2単位、基礎化学6単位、基礎生物学2単位の合計14単位を修得

してください。それぞれクラス指定がありますので、初修時には指定された授業題目を受講してください。基礎物理学及び基礎生物学を再履修となりクラス指定以外の授業題目を履修する場合は、Web履修登録開始日の原則2週間前までに薬学部学務係に事前相談してください。事前相談で許可された授業題目しか履修登録できません。

- ② ウェルネス総合演習は、受講票（マークカード）を担当教員に提出することにより、履修登録します。教務事務システム（Web）での履修登録はできません。
- ③ 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
- ④ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(4) 外国語教育科目群

英語4単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から4単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語（4単位）

基盤英語（Bと略記）1単位、主題別英語（Tと略記）1単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

薬学部の履修パターン： 1年前期 B 後期 T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限1単位です。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択してください。ドイツ語は「入門」を1年次前期・後期に各1単位、「初級」を2年次前期・後期に各1単位の計4単位を修得してください。フランス語及び中国語はペアのクラスで「入門」を1年次前期に2単位、「初級」を1年次後期に2単位の計4単位履修してください。ドイツ語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。なお、ドイツ語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(5) その他

グローバル化教育科目群、イノベーション教育科目群、地域科学教育科目群及び医療基盤教育科目群から6単位を選択し履修してください。ただし、各科目4単位を上限とし、2科目群以上にまたがって履修してください。

また、基礎基盤教育科目群のウェルネス総合演習、汎用的技能教育科目群のスタディスキル及びコミュニケーションから2単位を履修してください。

5 理工学部

1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース、応用理数コース

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で39単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | 技術者・科学者の倫理 | 2 | 6 | 12 | |
| | 人間と生命 | ニュービジネス概論 | 2 | | | |
| | 生活と社会 | キャリアプラン | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 14 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 線形代数学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 線形代数学Ⅱ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅱ | 2 | | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学・力学概論 | 2 | | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学概論 | 2 | | | |
| | 基礎生物学 | | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 39 | | | |

(1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目・イノベーション教育科目群 (12単位)

- ① 必修科目として、一般教養教育科目群の「歴史と文化」から「技術者・科学者の倫理」, 「人間と生命」から「ニュービジネス概論」, 「生活と社会」から「キャリアプラン」を修得してください。
- ② 選択科目として、一般教養教育科目群 (4科目), グローバル化教育科目群 (1科目), イノベーション教育科目群 (1科目) の合計6科目から3科目にわたり3授業題目 (6単位) を修得してください。
- ③ ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は, 1授業題目 (2単位) しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群

- ① 基礎数学8単位, 基礎物理学2単位, 基礎化学2単位, ウェルネス総合演習2単位の合計14単位を修得してください。

- ② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
- ③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目で、クラス指定があります。

(4) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(5) 外国語教育科目群

英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語(6単位)

基盤英語(Bと略記)2単位、主題別英語(Tと略記)2単位、発信型英語(Cと略記)2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

理工学部の履修パターン：

| | | | | | | | | |
|------|---|---|----|---|------|---|----|---|
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | C | 後期 | T |
| 又は | | | | | | | | |
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | 2年前期 | T | 後期 | C |

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語(2単位)

ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、その外国語の「入門」1単位を合計2単位修得してください。フランス語及び中国語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期(半年)で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。

5 理工学部

2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で39単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | 技術者・科学者の倫理 | 2 | 6 | 12 | |
| | 人間と生命 | ニュービジネス概論 | 2 | | | |
| | 生活と社会 | キャリアプラン | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 14 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 線形代数学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 線形代数学Ⅱ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅱ | 2 | | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学・力学概論 | 2 | | | |
| | | 基礎物理学・電磁気学概論 | 2 | | | |
| | 基礎化学 | | | | | |
| | 基礎生物学 | | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 39 | | | |

(1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目・イノベーション教育科目群 (12単位)

- ① 必修科目として、一般教養教育科目群の「歴史と文化」から「技術者・科学者の倫理」, 「人間と生命」から「ニュービジネス概論」, 「生活と社会」から「キャリアプラン」を修得してください。
- ② 選択科目として、一般教養教育科目群 (4科目), グローバル化教育科目群 (1科目), イノベーション教育科目群 (1科目) の合計6科目から3科目にわたり3授業題目 (6単位) を修得してください。
- ③ ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は, 1授業題目 (2単位) しか修得できません。

(2) 基礎基盤教育科目群

- ① 基礎数学 8 単位, 基礎物理学 4 単位, ウェルネス総合演習 2 単位の合計 14 単位を修得してください。
- ② 高大接続科目の「数学」は, 数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
- ③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら, 身の回りの出来事を理解し, さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は 1 単位必修の科目です。
- ② 情報科学は 2 単位必修の科目で, クラス指定があります。

(4) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

(5) 外国語教育科目群

英語 6 単位, 英語以外の外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語) から 2 単位の計 8 単位を修得してください。外国語教育科目については, 受講者の調整を行うため, クラス指定があるものがあります。

① 英語 (6 単位)

基盤英語 (B と略記) 2 単位, 主題別英語 (T と略記) 2 単位, 発信型英語 (C と略記) 2 単位の併せて 6 単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位ですが, 発信型英語は 2 単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

理工学部の履修パターン：

| | | | | | | | | |
|-------|---|---|----|---|-------|---|----|---|
| 1 年前期 | B | B | 後期 | T | 2 年前期 | C | 後期 | T |
| 又は | | | | | | | | |
| 1 年前期 | B | B | 後期 | T | 2 年前期 | T | 後期 | C |

B の再受講は次の期の T を余分にとることによって可能です。T の再受講は T で, C については原則 C を再受講する必要があります。ただし, 履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。B の履修は上限 2 単位です。

② 初修外国語 (2 単位)

ドイツ語, フランス語, 中国語からいずれかひとつを選択し, その外国語の「入門」1 単位を合計 2 単位修得してください。フランス語及び中国語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週 1 回ずつ, フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは, 1 週間に指定された同じクラスで 2 回受講し, 半期 (半年) で 2 単位を履修する方法です。フランス語は 2 単位が一括で認定されます。

再受講については, 原則として, 「入門」で受講してください。なお, ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は, 原則, 後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については, 各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を, 初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は, 事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ, 後期の「入門」を受講することはできません。

6 理工学部夜間主コース

1. 理工学部理工学科社会基盤デザインコース、応用理数コース

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で39単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|----------------------|----------------------------|-----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | 技術者・科学者の倫理 | 2 | 6 | 12 | |
| | 人間と生命 | ニュービジネス概論 | 2 | | | |
| | 生活と社会 | キャリアプラン | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 14 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 線形代数学Ⅰ | | 2 | | |
| | | 線形代数学Ⅱ | | 2 | | |
| | | 微積分学Ⅰ | | 2 | | |
| | | 微積分学Ⅱ | | 2 | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学・力学概論 | | 2 | | |
| | 基礎化学 | 基礎化学概論 | | 2 | | |
| 基礎生物学 | | | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | 3 | |
| | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | 2 | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 39 | | | |

(1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目・イノベーション教育科目群 (12単位)

- ① 必修科目として、一般教養教育科目群の「歴史と文化」から「技術者・科学者の倫理」, 「人間と生命」から「ニュービジネス概論」, 「生活と社会」から「キャリアプラン」を修得してください。
- ② 選択科目として、一般教養教育科目群 (4科目), グローバル化教育科目群 (1科目), イノベーション教育科目群 (1科目) の合計6科目から3科目にわたり3授業題目 (6単位) を修得してください。
- ③ ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は, 1授業題目 (2単位) しか修得できません。一般教養教育科目群の授業題目は, 昼間コースから前期・後期にそれぞれ2授業題目 (4単位) まで履修することができます。

(2) 基礎基盤教育科目群

- ① 基礎数学8単位, 基礎物理学2単位, 基礎化学2単位, ウェルネス総合演習2単位の合計14単位を修得してください。
- ② 高大接続科目の「数学」は, 数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業で, 昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら, 身の回りの出来事を理解し, さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で, 昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが, 卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(3) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
- ② 情報科学は2単位必修の科目です。

(4) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(5) 外国語教育科目群

英語6単位, 英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語)から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については, 受講者の調整を行うため, クラス指定があるものがあります。

① 英語(6単位)

基盤英語(Bと略記)2単位, 主題別英語(Tと略記)2単位, 発信型英語(Cと略記)2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが, 発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

理工学部の履修パターン:

| | | | | | | | | |
|------|---|---|----|---|---|------|---|------|
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | T | 2年前期 | C | 後期 |
| 又は | | | | | | | | |
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | T | 2年前期 | | 後期 C |

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで, Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし, 履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語(2単位)

ドイツ語, フランス語, 中国語からいずれかひとつを選択し, その外国語の「入門」1単位を合計2単位修得してください。

ドイツ語入門は, 2年前期・後期に週1回ずつ受講するか, 又は理工学部昼間コースの前期・後期で週1回ずつ受講してください。なお, 前期・後期は同一のクラスの授業を選択してください。

フランス語入門は, 前期にペアの指定クラスで受講してください。「ペアのクラスで受講」とは, 1週間に指定された同じクラスで2回受講し, 半期(半年)で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

中国語入門は, 昼間コースの前期・後期の指定クラスで週1回ずつ受講してください。

再受講については, 原則として, 「入門」で受講してください。なお, ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は, 原則, 後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については, 各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を, 初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は, 事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ, 後期の「入門」を受講することはできません。

(6) 昼間コースの履修登録について

一般教養教育科目群の授業を昼間コースで履修する場合は, 受講票(マークカード)を教育支援課教養教育係へ提出してください。Webでは履修登録できません。受講票(マークカード)の提出期限は, Web登録と同じです。

※一般教養教育科目群の授業題目は, 昼間コースから前期・後期にそれぞれ2授業題目(4単位)まで履修することができます。

なお, 高大接続科目, 自然科学入門, ドイツ語, フランス語, 中国語の授業を昼間コースで履修する場合は, Web登録ができます。

6 理工学部夜間主コース

2. 理工学部理工学科機械科学コース, 応用化学システムコース, 電気電子システムコース, 情報光システムコース

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で39単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | 技術者・科学者の倫理 | 2 | 6 | 12 | |
| | 人間と生命 | ニュービジネス概論 | 2 | | | |
| | 生活と社会 | キャリアプラン | 2 | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | | | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | | | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 14 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 線形代数学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 線形代数学Ⅱ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 微分積分学Ⅱ | 2 | | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学・力学概論 | 2 | | | |
| | | 基礎物理学・電磁気学概論 | 2 | | | |
| | 基礎化学 | | | | | |
| 基礎生物学 | | | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| | 中国語 | 中国語入門 | | | | |
| 合計 | | | 39 | | | |

- (1) 一般教養教育科目群・グローバル化教育科目・イノベーション教育科目群 (12単位)
- ① 必修科目として, 一般教養教育科目群の「歴史と文化」から「技術者・科学者の倫理」, 「人間と生命」から「ニュービジネス概論」, 「生活と社会」から「キャリアプラン」を修得してください。
 - ② 選択科目として, 一般教養教育科目群 (4科目), グローバル化教育科目群 (1科目), イノベーション教育科目群 (1科目) の合計6科目から3科目にわたり3授業題目 (6単位) を修得してください。
 - ③ ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は, 1授業題目 (2単位) しか修得できません。一般教養教育科目群の授業題目は, 昼間コースから前期・後期にそれぞれ2授業題目 (4単位) まで履修することができます。
- (2) 基礎基盤教育科目群
- ① 基礎数学8単位, 基礎物理学4単位, ウェルネス総合演習2単位の合計14単位を修得してくだ

さい。

- ② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。
 - ③ 自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。
- (3) 汎用的技能教育科目群
- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
 - ② 情報科学は2単位必修の科目です。
- (4) 地域科学教育科目群
地域科学教育科目の中から1授業題目（2単位）を修得してください。
- (5) 外国語教育科目群
英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。
- ① 英語（6単位）
基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。
基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。
次の履修パターンが用意されています。

理工学部の履修パターン：

| | | | | | | | | |
|------|---|---|----|---|---|------|---|------|
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | T | 2年前期 | C | 後期 |
| 又は | | | | | | | | |
| 1年前期 | B | B | 後期 | T | T | 2年前期 | | 後期 C |

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

- ② 初修外国語（2単位）
ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、その外国語の「入門」1単位を合計2単位修得してください。
ドイツ語入門は、2年前期・後期に週1回ずつ受講するか、又は理工学部昼間コースの前期・後期で週1回ずつ受講してください。なお、前期・後期は同一のクラスの授業を選択してください。
フランス語入門は前期にペアの指定クラスで受講してください。「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。
中国語入門は、昼間コースの前期・後期の指定クラスで週1回ずつ受講してください。
再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。
特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。
※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。
- (6) 昼間コースの履修登録について
一般教養教育科目群の授業を昼間コースで履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課教養教育係へ提出してください。Webでは履修登録できません。受講票（マークカード）の提出期限は、Web登録と同じです。
※一般教養教育科目群の授業題目は、昼間コースから前期・後期にそれぞれ2授業題目（4単位）まで履修することができます。
なお、高大接続科目、自然科学入門、ドイツ語、フランス語、中国語の授業を昼間コースで履修する場合は、Web登録ができます。

7 生物資源産業学部

卒業に必要な教養教育の単位数は総計で31単位です。

(単位数)

| 科目群 | 科目 | 授業題目 | 単位数 | | | |
|--------------|-------------|----------------------------|-----|----|---|--|
| | | | 必修 | 選択 | 計 | |
| 一般教養教育科目群 | 歴史と文化 | | | 6 | 6 | |
| | 人間と生命 | | | | | |
| | 生活と社会 | | | | | |
| | 自然と技術 | | | | | |
| グローバル化教育科目群 | グローバル化教育科目 | | | 2 | 2 | |
| イノベーション教育科目群 | イノベーション教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 基礎基盤教育科目群 | 高大接続科目 | | | | 8 | |
| | 自然科学入門 | | | | | |
| | 基礎数学 | 微分積分学 | 2 | | | |
| | | 統計学 | 2 | | | |
| | 基礎物理学 | 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | 1 | | | |
| | | 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | 1 | | | |
| | 基礎化学 | | | | | |
| | 基礎生物学 | | | | | |
| 基盤教育学 | | | | | | |
| ウェルネス総合演習 | ウェルネス総合演習 | 2 | | | | |
| 汎用的技能教育科目群 | S I H道場 | S I H道場 ～アクティブ・ラーニング入門～ | 1 | | 3 | |
| | 情報科学 | 情報科学入門 | 2 | | | |
| | スタディスキル | | | | | |
| | コミュニケーション | | | | | |
| 地域科学教育科目群 | 地域科学教育科目 | | | 2 | 2 | |
| 医療基盤教育科目群 | 医療基盤教育科目 | | | | 0 | |
| 外国語教育科目群 | 英語 | 基盤英語 | 2 | | 8 | |
| | | 主題別英語 | 2 | | | |
| | | 発信型英語 | 2 | | | |
| | ドイツ語 | ドイツ語入門 | | 2 | | |
| | フランス語 | フランス語入門 | | | | |
| 中国語 | 中国語入門 | | | | | |
| 合計 | | | | 31 | | |

(1) 一般教養教育科目群 (6単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目の中から、3授業科目(6単位)を修得してください。

ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(2) グローバル化教育科目群 (2単位)

グローバル化教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(3) イノベーション教育科目群 (2単位)

イノベーション教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(4) 基礎基盤教育科目群

① 基礎数学4単位、基礎物理学2単位、ウェルネス総合演習2単位の合計8単位を修得してください。

② 高大接続科目の「数学」は、数Ⅲについての補修的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる

科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

- ③ 自然科学入門には「物理学」, 「化学」, 「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(5) 汎用的技能教育科目群

- ① S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～は1単位必修の科目です。
② 情報科学は2単位必修の科目です。

(6) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目の中から1授業題目(2単位)を修得してください。

(7) 外国語教育科目群

英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位を修得してください。外国語教育科目については、受講者の調整を行うため、クラス指定があるものがあります。

① 英語(6単位)

基盤英語(Bと略記)2単位、主題別英語(Tと略記)2単位、発信型英語(Cと略記)2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

生物資源産業学部の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要があります。ただし、履修前に教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語(2単位)

ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、その外国語の「入門」1単位を合計2単位修得してください。ドイツ語の指定クラスは「教養教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

ドイツ語及び中国語は前期・後期に週1回ずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期(半年)で2単位を履修する方法です。フランス語は2単位が一括で認定されます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員又は教育支援課教養教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は前期の「入門」の単位を取得していなければ、後期の「入門」を受講することはできません。

8 留 学 生

留学生のみなさんには、所属する学部・学科の履修方法に加え、次の方法が認められています。

- 1 グローバル化教育科目群に日本事情 I～IVが開講され、一般教養教育科目群の中の授業（歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なることがありますので、日本事情担当教員に問い合わせてください。
- 2 外国語教育科目群に日本語 1～8が開講され、1年生、2年生共にどの授業も受講することができます。日本語は外国語の単位として振り替えることができます。

第4章

教養教育 開講授業科目・ 授業題目・担当者一覧(2017年度)

第4章 教養教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧 (2017年度)

1 一般教養教育科目群

1) 歴史と文化

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------------|---------|-----|-----|------|
| 中国儒教思想史 | 新田 | | ○ | 総科 |
| 20世紀前半の中国 | 荒武 | ○ | | 総科 |
| 20世紀後半の中国 | 荒武 | | ○ | 総科 |
| ドイツの伝説と英雄叙事詩 | 石川 | ○ | | 非常勤 |
| トリスタン伝説と芸術作品 | 石川 | ○ | | 非常勤 |
| ジークフリート伝説と芸術作品 | 石川 | | ○ | 非常勤 |
| ドイツ・北欧の伝説とオペラ | 石川 | | ○ | 非常勤 |
| 日本語の音声 | 岸江 | ○ | | 総科 |
| 日本の古代史 | 衣川 | ○ | | 総科 |
| 古代・中世日本の社会 | 衣川 | | ○ | 総科 |
| 戦国時代から近世社会への変化 | 桑原 恵 | ○ | | 総科 |
| 江戸時代後期の社会変動と明治維新 | 桑原 恵 | | ○ | 総科 |
| 技術者・科学者の倫理 | 南井 他 | 集中 | | 非常勤 |
| 技術者・科学者の倫理 | 堂道 他 | 集中 | | 非常勤 |
| 技術者・科学者の倫理 | 中村(正) 他 | 集中 | | 非常勤 |
| 技術者・科学者の倫理 | 下村 他 | | ○ | 理工 |
| 技術者・科学者の倫理 | 中村(浩) 他 | | ○ | 理工 |
| 技術者・科学者の倫理 | 滑川 他 | | ○ | 理工 |
| 沖縄社会文化論 | 高橋 | | ○ | 総科 |
| 空海と歩く～歩き遍路の世界～ | 田中(俊) | | ○ | 大学開放 |
| 和歌から俳諧, 俳諧から俳句へ | 堤 | ○ | | 総科 |
| 能・狂言・文楽・歌舞伎 | 堤 | | ○ | 総科 |
| 近現代文学の世界Ⅰ | 富塚 | ○ | | 総科 |
| 近現代文学の世界Ⅱ | 富塚 | | ○ | 総科 |
| 世界遺産が語る地理と歴史 | 豊田 | ○ | | 総科 |
| フィールドワーク入門Ⅰ | 内藤(直) | ○ | | 総科 |
| フィールドワーク入門Ⅱ | 内藤(直) | | ○ | 総科 |
| 考古学概論Ⅰ | 中村 豊 | ○ | | 総科 |
| 考古学概論Ⅱ | 中村 豊 | | ○ | 総科 |
| 東アジア考古学概論Ⅰ | 端野 | ○ | | 埋蔵文化 |
| 東アジア考古学概論Ⅱ | 端野 | | ○ | 埋蔵文化 |
| 日本図の歴史 | 平井 | | ○ | 総科 |
| 西洋音楽の歴史 | 宮澤 | ○ | ○ | 教養教育 |
| デスクトップミュージック入門 | 宮澤 | | ○ | 教養教育 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|----------------|---------|-----|-----|------|
| ジークフリート伝説と芸術作品 | 石川 | | ○ | 非常勤 |
| 技術者・科学者の倫理 | 下村 他 | | ○ | 理工 |
| 日本図の歴史 | 平井 | ○ | | 総科 |
| デスクトップミュージック入門 | 宮澤 | ○ | | 教養教育 |
| 日本語の敬語 | 村上(敬) | ○ | | 総科 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---|---------|-----|-----|-----|
| 香川の文化と歴史 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 原 | ○ | | 非常勤 |
| 香川の文化と歴史 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 原 | ○ | | 非常勤 |
| 阿波学(eラーニング科目(知プラe)) | 藤原 他 | ○ | | 非常勤 |
| 四国の歴史と文化 その1 歴史編(eラーニング科目(知プラe)) | 守田 他 | ○ | | 非常勤 |
| 四国の歴史と文化 その2 文化編(eラーニング科目(知プラe)) | 渡邊 他 | ○ | | 非常勤 |
| 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920-四国の収容所を中心に-(eラーニング科目(知プラe)) | 井戸 | | ○ | 総科 |
| ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり(eラーニング科目(知プラe)) | 村上(恭) | | ○ | 非常勤 |

2) 人間と生命

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-------------------|---------|-----|-----|------|
| 行動観察から行動科学へ | 荒木(秀) | ○ | | 教養教育 |
| 社会観の探究 | 石田(三) | | ○ | 総科 |
| 心理学要説 | 上岡 | ○ | ○ | 総科 |
| 科学情報に惑わされない為の基礎知識 | 小山(保) | ○ | | 生物資源 |
| 心理学基礎 | 境 | ○ | ○ | 総科 |
| 心理学概説 | 佐藤(健) | ○ | ○ | 総科 |
| バイオテクノロジーの世界 | 佐藤(高) | | ○ | 理工 |
| ミルクの科学 | 佐藤(高) | ○ | | 理工 |
| 自然保護論 | 佐藤(征) | | ○ | 生物資源 |
| 基礎心理学入門 | 佐藤 裕 | ○ | | 総科 |
| 生体の統合機能 | 勢井 他 | | ○ | 医 |
| バイオテクノロジーと生命倫理 | 辻 | | ○ | 生物資源 |
| 生命倫理と現代社会Ⅰ | 土屋 | ○ | | 総科 |
| 生命倫理と現代社会Ⅱ | 土屋 | | ○ | 総科 |
| よくわかる生涯学習 | 馬場 | | ○ | 大学開放 |
| 心理学概論 | 福森 | ○ | ○ | 総科 |
| ニュービジネス概論 | 武藤 | | ○ | 理工 |
| 自己理解を深める心理学 | 山本(真) | ○ | ○ | 総科 |
| 身の回りの微生物 | 横井川 | ○ | | 生物資源 |
| 東洋の知識人 | 葭森 | | ○ | 総科 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 心理学入門 | 佐藤 裕 | | ○ | 総科 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------------------------|---------|-----|-----|------|
| 知の探訪 (eラーニング科目(知プラe)) | 金西 | | ○ | 総合教育 |
| タンパク質で生命を斬る (eラーニング科目(知プラe)) | 坪井 他 | | ○ | 非常勤 |

3) 生活と社会

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------------------------------|------------------|-----|-----|------|
| 国際政治学入門 | 饗場 | ○ | | 総科 |
| 政治とメディア | 饗場 | | ○ | 総科 |
| 憲法と人権 | 麻生 | | ○ | 非常勤 |
| 財政制度入門 | 石田 和之 | ○ | | 総科 |
| 現代社会と法 | 上原 | ○ | ○ | 総科 |
| 市民と政治 | 栗栖 | ○ | ○ | 総科 |
| 生命保険を考える | 一般社団法人 生命保険協会 | ○ | | 非常勤 |
| 政策学入門 | 小田切 | | ○ | 総科 |
| 憲法と市民自治 | 柴田 | ○ | ○ | 総科 |
| 法学入門 | 清水 | ○ | | 総科 |
| 会社法入門 | 清水 | | ○ | 総科 |
| 身体・精神・発達障害へのサポートー私たちにできることを考えるー | 住谷 | ○ | | 修学支援 |
| 憲法と人権Ⅱ | 瀧 | | ○ | 非常勤 |
| 建築デザイン入門 | 田口 | ○ | | 総科 |
| 人口経済学入門 | 趙 | ○ | | 総科 |
| 地理空間情報と人間社会 | 塚本 | ○ | | 総科 |
| キャリアプラン | 畠 | | ○ | 総合教育 |
| 憲法と人権Ⅰ | 堀井 | ○ | | 非常勤 |
| 経営学入門 | 松嶋 | ○ | | 総科 |
| 経済学入門 | 眞弓 | ○ | | 総科 |
| ゼミナール「社会科学の夢」 | 水島 | ○ | | 総科 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------------|---------|-----|-----|-----|
| 社会学のパーспекティブ | 矢部 | ○ | | 総科 |
| 都市の人間関係 | 矢部 | | ○ | 総科 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 政策学入門 | 小田切 | ○ | | 総科 |
| 憲法と市民自治 | 柴田 | | ○ | 総科 |
| 経済学入門 | 眞弓 | ○ | | 総科 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------------------------------|---------|-----|-----|------|
| 現代科学と研究理論 (eラーニング科目(知プラe)) | 金西 | | ○ | 総合教育 |
| 学校教員の世界 (eラーニング科目(知プラe)) | 竹口 他 | | ○ | 非常勤 |
| 四国の地域振興 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 四国の地域振興 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 香川を学ぶ その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 藤本 他 | | ○ | 非常勤 |
| 香川を学ぶ その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 藤本 他 | | ○ | 非常勤 |
| 地域コンテンツと知財管理 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 地域コンテンツと知財管理 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |

4) 自然と技術

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------------------------|-----------|-----|-----|------|
| 岩石と鉱物 | 青矢 | ○ | | 理工 |
| プレートテクトニクス | 青矢 | | ○ | 理工 |
| 地球の科学 | 石田(啓) | ○ | ○ | 理工 |
| 科学技術と倫理 | 石田(三) | ○ | | 総科 |
| 生活と化学 | 上野(雅) | | ○ | 理工 |
| 数理科学の世界 | 大淵 | | ○ | 理工 |
| 情報基盤の運用技術について考える | 金西 | ○ | | 総合教育 |
| 情報メディアと教育 | 金西 他 | | ○ | 総合教育 |
| 教養としての統計 | 川野 | ○ | ○ | 総合教育 |
| 身のまわりの物性科学 | 小山(晋) | ○ | | 理工 |
| 災害を知る | 中野 他 | ○ | | 理工 |
| 災害に備える | 中野 他 | | ○ | 理工 |
| 気象災害を防ぐ | 西山 | ○ | | 理工 |
| 地震・火山災害を防ぐ | 西山 | | ○ | 理工 |
| 森林・木材科学概論 | 服部(武) | ○ | | 生物資源 |
| 原子核・素粒子物理学の最先端 | 伏見 | ○ | | 理工 |
| 現代天文学への招待 | 古屋 | ○ | | 教養教育 |
| 物理学実験室としての宇宙：星と銀河に関わる天文学の基礎 | 古屋 | | ○ | 教養教育 |
| 遺伝と進化 | 松尾 | | ○ | 理工 |
| 資源と環境のはなし | 眞弓 | ○ | | 総科 |
| 自然放射線と放射線科学 | 三好(弘) | ○ | | 放射線 |
| 地球と地層の科学 | 村田 | ○ | | 理工 |
| 身の回りの地球科学 | 村田 | | ○ | 理工 |
| 機械工学概論 | 機械科学コース教員 | ○ | | 理工 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------|-----------|-----|-----|-----|
| 身のまわりの物性科学 | 小山(晋) | | ○ | 理工 |
| 遺伝と進化 | 松尾 | ○ | | 理工 |
| 身の回りの地球科学 | 村田 | | ○ | 理工 |
| 機械工学概論 | 機械科学コース教員 | ○ | | 理工 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--|---------|-----|-----|------|
| 気象学入門(eラーニング科目(知プラe)) | 佐々 | ○ | | 非常勤 |
| 海洋基礎生態学(eラーニング科目(知プラe)) | 深見 | ○ | | 非常勤 |
| 有機化学概論(eラーニング科目(知プラe)) | 立川 | ○ | | 非常勤 |
| サイエンスリテラシーの化学(eラーニング科目(知プラe)) | 立川 他 | | ○ | 非常勤 |
| 情報のいろは(eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 行動統計学入門(eラーニング科目(知プラe)) | 川野 | | ○ | 総合教育 |
| 自動車概論(eラーニング科目(知プラe)) | 宮下 | | ○ | 非常勤 |
| 四国の自然環境と防災 その1(eラーニング科目(知プラe)) | 寺尾 他 | | ○ | 非常勤 |
| 四国の自然環境と防災 その2(eラーニング科目(知プラe)) | 寺尾 他 | | ○ | 非常勤 |
| コンピュータと教育 その1(eラーニング科目(知プラe)) | 林 | | ○ | 非常勤 |
| コンピュータと教育 その2(eラーニング科目(知プラe)) | 林 | | ○ | 非常勤 |
| 太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産(eラーニング科目(知プラe)) | 高山 他 | | ○ | 非常勤 |
| 飛行機はなぜ飛ぶのか(eラーニング科目(知プラe)) | 岩本 | | ○ | 非常勤 |

2 グローバル化教育科目群

1) グローバル化教育科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---|----------|-----|-----|------|
| 国際協力論－この貧困と紛争の尽きない世界で－ | 饗場 | | ○ | 総科 |
| 異文化交流から学ぶグローバル化 | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| グローバル・コミュニケーションプロジェクト | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| Global Communication – Peer learning with foreign students and citizens – | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| グローバル社会と医療 | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| グローバル社会に必要な教養とは何か | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| グローバル社会に必要な地域医療とは | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| 異文化交流体験から何を学ぶのか | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| グローバル化時代の地域医療を考える | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| グローバル化社会と異文化コミュニケーション | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| Global Communication – Group communication for global society – | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| Global Communication – Peer learning with foreign students – | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| グローバル時代の教養を考える | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| グローバル社会における医療の課題 | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| グローバル社会に必要な異文化理解のためにⅠ－多文化共生社会を考える－ | 大橋 眞 他 | 集中 | | 教養教育 |
| グローバル社会に必要な異文化理解のためにⅡ－異文化から学ぶ共生社会－ | 大橋 眞 他 | | 集中 | 教養教育 |
| Global Communication – Volunteer experience in local community – | 大橋 眞 他 | 集中 | | 教養教育 |
| 徳島俘虜収容所と板東俘虜収容所から学ぶ | ギュンター(デ) | | ○ | 教養教育 |
| Robert E. Howard – Genre Maker, Creator of Pop Culture Icons and Writer of Texas and the American Southwest | ギュンター(デ) | | ○ | 教養教育 |
| Introduction to Fantasy Literature | ギュンター(デ) | | ○ | 教養教育 |
| Global Communication – Peer learning on science – | 齊藤(隆) | | ○ | 教養教育 |
| 現代世界の展開Ⅰ | 佐久間 | ○ | | 総科 |
| 現代世界の展開Ⅱ | 佐久間 | | ○ | 総科 |
| 現代社会における生涯学習の諸相－日本と世界－ | 鈴木(尚) | | ○ | 大学開放 |
| 異文化／自文化研究へのいざない | 高橋 | ○ | | 総科 |
| 中国近世小説の形成と展開 | 田中(智) | ○ | | 総科 |
| 移民から世界をみる | 樋口(直) | ○ | | 総科 |
| 貧困の経済学 | 趙 | | ○ | 総科 |
| 国際交流の扉を拓(ひら)く | 三隅 他 | ○ | | 国際 |
| 中東経済入門－歴史と文化基盤－ | 水島 | ○ | | 総科 |
| 中東経済入門 (第二次世界大戦後の政治と経済) | 水島 | | ○ | 総科 |
| Global Communication – Peer learning on culture of Tokushima – | 宮崎 | | ○ | 教養教育 |
| 世界の中の日本語 | 村上(敬) | ○ | | 総科 |
| Global Communication – Traditional art craft – | 山城 | | ○ | 生物資源 |
| アメリカ社会の諸問題 | 吉岡 | | ○ | 総科 |
| アジアの近代と日本 | 葭森 | ○ | | 総科 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------|---------|-----|-----|-----|
| アメリカ社会の形成と展開 | 吉岡 | ○ | | 総科 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--|---------|-----|-----|------|
| 「モラエスの徳島」～グローバリズムと異邦人～(eラーニング科目(知プラe)) | 宮崎 | | ○ | 教養教育 |

2) 日本事情 (留学生対象)

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 日本事情Ⅰ | 三隅 | ○ | | 国際 |
| 日本事情Ⅱ | 三隅 | | ○ | 国際 |
| 日本事情Ⅲ | 三隅 | ○ | | 国際 |
| 日本事情Ⅳ | 三隅 | | ○ | 国際 |

3 イノベーション教育科目群

1) イノベーション教育科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------|---------|-----|------|------|
| 行動調査研究プロジェクト | 荒木(秀) | ○ | | 教養教育 |
| 知的財産法入門 | 織田 他 | ○ | | 産学官 |
| アーツ・アンド・テクノロジー | 河原崎 | ○ | | 総科 |
| イノベーション思考入門 | 北岡 | ○ | ○ | 教養教育 |
| 課題発見・解決入門 | 北岡 | ○ | | 教養教育 |
| 環境とバイオテクノロジー | 佐藤(高) | ○ | | 理工 |
| 「つたえること」と「ものづくり」－藍染めの科学－ | 佐藤(高) | | ○ | 理工 |
| 空間情報論入門 | 塚本 | | ○ | 総科 |
| 絵画表現と技法の基礎 | 平木 | ○ | | 総科 |
| 絵画表現と技法の応用 | 平木 | | ○ | 総科 |
| 最新の酵素学が切り開く疾患生命科学研究の世界 | 福井 他 | | ○ | 酵素 |
| イノベーション・プロジェクト入門 | 浮田 | | 通年集中 | 理工 |
| ゲノムと発生のテクノロジー | 真壁 | ○ | | 理工 |
| 大学とイノベーション | 山口 | | ○ | 総科 |
| インタラクティブシステムデザイン | 吉田(敦) | ○ | | 総科 |
| 学校をつくろう | 吉田(敦) | ○ | | 総科 |
| サービス・ラーニング (一部集中講義) | 吉田(敦) | | ○ | 総科 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------|---------|-----|------|------|
| 「つたえること」と「ものづくり」－科学と遊ぼう－ | 齊藤(隆) | | ○ | 教養教育 |
| イノベーションプロジェクト入門 | 浮田 | | 通年集中 | 理工 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-------------------------------------|---------|-----|-----|-----|
| 大学生のための『安全・安心』の基礎講座(eラーニング科目(知プラe)) | 田中 | | ○ | 非常勤 |

4 基礎基盤教育科目群

1) 高大接続科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 数学 | 大沼 | ○ | | 理工 |

2) 自然科学入門

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------------|---------|-----|-----|------|
| 物理学 | 齊藤(隆) | ○ | | 教養教育 |
| 化学－化学のしくみ－ | 南川 | ○ | | 教養教育 |
| 生物学－基礎からの細胞生物学－ | 渡部 | ○ | | 教養教育 |

3) 基礎数学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 医療情報処理 | 河野 | ○ | | 歯 |
| 線形代数学Ⅰ | 小野 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅰ | 片山 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅰ | 桑原(類) | ○ | | 非常勤 |
| 線形代数学Ⅰ | 鍋島 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅰ | 蓮沼 徹 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅰ | 村上(公) | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅰ | 守安 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 小野 | | ○ | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 片山 | | ○ | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 桑原(類) | | ○ | 非常勤 |
| 線形代数学Ⅱ | 鍋島 | | ○ | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 蓮沼 | | ○ | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 村上(公) | | ○ | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 守安 | | ○ | 理工 |
| 統計学 | 大沼 | | ○ | 理工 |
| 統計学 | 大橋 守 | | ○ | 理工 |
| 統計学 | 大淵 | | ○ | 理工 |
| 統計学 | 村上(公) | ○ | ○ | 理工 |
| 統計学 | 守安 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学 | 大沼 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学 | 大橋 守 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学 | 大淵 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学 | 蓮沼 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学 | 鍋島 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 伊藤 | ○ | | 非常勤 |
| 微分積分学Ⅰ | 宇野 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 大橋 守 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 大淵 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 岡本 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 桑原(類) | ○ | | 非常勤 |
| 微分積分学Ⅰ | 竹内(敏) | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 水野 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 伊藤 | | ○ | 非常勤 |
| 微分積分学Ⅱ | 宇野 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 鍋島 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 大橋 守 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 大淵 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 岡本 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 桑原(類) | | ○ | 非常勤 |
| 微分積分学Ⅱ | 竹内(敏) | | ○ | 理工 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 線形代数学Ⅰ | 大沼 | ○ | | 理工 |
| 線形代数学Ⅱ | 大沼 | | ○ | 理工 |
| 微分積分学Ⅰ | 大山 | ○ | | 理工 |
| 微分積分学Ⅱ | 竹内 博 | | ○ | 非常勤 |

4) 基礎物理学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------|---------|-----|-----|------|
| 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | 小山(晋) | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | 齊藤(隆) 他 | ○ | | 教養教育 |
| 基礎物理学Ⅰ・物理学概論 | 古屋 | ○ | | 教養教育 |
| 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | 小山(晋) | | ○ | 理工 |
| 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | 齊藤(隆) 他 | | ○ | 教養教育 |
| 基礎物理学Ⅱ・物理学概論 | 古屋 | | ○ | 教養教育 |
| 基礎物理学・力学概論 | 井澤 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 犬飼 他 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 川崎 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 岸本 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 中村(浩) | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 久田 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・力学概論 | 真岸 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・電磁気学概論 | 井澤 | | ○ | 理工 |
| 基礎物理学・電磁気学概論 | 犬飼 他 | | ○ | 理工 |
| 基礎物理学・電磁気学概論 | 岸本 | | ○ | 理工 |
| 基礎物理学・電磁気学概論 | 中村(浩) | | ○ | 理工 |
| 力学及び熱力学 | 古屋 | ○ | | 教養教育 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------|---------|-----|-----|-----|
| 基礎物理学・力学概論 | 岸本 | ○ | | 理工 |
| 基礎物理学・電磁気学概論 | 岸本 | | ○ | 理工 |

5) 基礎物理学実験

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|------|
| 基礎物理学実験 | 齊藤(隆) 他 | | ○ | 教養教育 |
| 基礎物理学実験 | 伏見 他 | | ○ | 理工 |

6) 基礎化学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------|---------|-----|-----|-----|
| 化学の基礎 | 武田 | ○ | | 非常勤 |
| 基礎化学Ⅰ・電子と有機化学 | 根本 | ○ | | 薬 |
| 基礎化学Ⅰ・物理化学(化学平衡と反応速度論) | 植野 | | ○ | 薬 |
| 基礎化学Ⅰ・物理化学(平衡と反応速度) | 植野 | ○ | | 薬 |
| 基礎化学 | 佐々木 | ○ | | 医 |
| 基礎化学Ⅱ・原子と分子 | 植野 | | ○ | 薬 |
| 基礎化学Ⅱ・有機化学(ライフサイエンスの基礎) | 小笠原(正) | ○ | | 理工 |
| 基礎化学ⅡA・有機化学(ライフサイエンスの基礎) | 三好(徳) | | ○ | 理工 |
| 基礎化学ⅡB・有機化学(ライフサイエンスの基礎) | 中村(光) | ○ | | 理工 |
| 基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎 | 山崎 | ○ | | 薬 |
| 基礎化学概論 | 武田 | | ○ | 非常勤 |
| 基礎化学概論 | 今井(昭) | | ○ | 理工 |
| 生化学入門 | 佐々木 | | ○ | 医 |

7) 基礎化学実験

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 基礎化学実験 | 三好(徳) 他 | ○ | | 理工 |
| 基礎化学実験 | 八木下 他 | | ○ | 理工 |
| 基礎化学実験 | 今井(昭) 他 | | ○ | 理工 |

8) 基礎生物学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------|---------|-----|-----|------|
| 基礎生物学 D I | 馬場 他 | ○ | | 歯 |
| 基礎生物学 D II | 吉村 他 | | ○ | 歯 |
| 基礎生物学 H | 渡部 | ○ | | 教養教育 |
| 基礎生物学 M | 米村 | ○ | | 医 |
| 基礎生物学 N | 佐藤(高) | | ○ | 理工 |
| 基礎生物学 P | 松尾 | ○ | | 理工 |
| 生理学入門 M | 六反 他 | | ○ | 医 |

9) 基礎生物学実験

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------|---------|-----|-----|------|
| 基礎生物学実験 D | 渡部 他 | | ○ | 教養教育 |
| 基礎生物学実験 N | 渡部 他 | ○ | | 教養教育 |
| 基礎生物化学実験 M | 六反 他 | | ○ | 医 |

10) 基盤教育学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------|---------|-----|-----|------|
| 大学教育と学び方入門 | 吉田 博 | | ○ | 総合教育 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------|---------|-----|-----|------|
| 大学教育を考える(eラーニング科目(知プラe)) | 吉田 博 | | ○ | 総合教育 |

11) ウェルネス総合演習

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------|---------|-----|-----|------|
| ウェルネス総合演習 | 荒木(秀) | | ○ | 教養教育 |
| ウェルネス総合演習 | 佐竹 | ○ | ○ | 総科 |
| ウェルネス総合演習 | 佐藤(充) | ○ | ○ | 総科 |
| ウェルネス総合演習 | 中塚(健) | | ○ | 総科 |
| ウェルネス総合演習 | 三浦 | | ○ | 総科 |
| ウェルネス総合演習 | 范(永) | ○ | ○ | 非常勤 |
| ウェルネス総合演習 | 升本 | ○ | ○ | 非常勤 |
| ウェルネス総合演習 | 中塚(多) | | ○ | 非常勤 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------|---------|-----|-----|-----|
| ウェルネス総合演習 | 中塚(健) | ○ | | 総科 |

5 汎用的技能教育科目群

1) SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------------|---------|-----|-----|-----|
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (総合科学部) | 教務・学生委員 | 集中 | | 総科 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (医・医) | 教務・学生委員 | 集中 | | 医 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (医・医科栄養) | 教務・学生委員 | 集中 | | 医 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (医・保健) | 教務・学生委員 | 集中 | | 医 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (歯学部) | 教務・学生委員 | 集中 | | 歯 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (薬学部) | 教務・学生委員 | 集中 | | 薬 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・社会基盤) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・機械科学) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・応用化学) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・電気電子) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・情報光) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-----------------------------------|---------|-----|-----|------|
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・応用理数) | 教務・学生委員 | ○ | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (生物資源産業学部) | 教務・学生委員 | 集中 | | 生物資源 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------------------|---------|-----|-----|-----|
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・社会基盤) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・機械科学) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・応用化学) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・電気電子) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・情報光) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |
| S I H道場～アクティブ・ラーニング入門～ (理工・応用理数) (夜) | 教務・学生委員 | 集中 | | 理工 |

2) 情報科学

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|------|
| 情報科学入門 | 伊藤(伸) | | ○ | 理工 |
| 情報科学入門 | 上田 他 | ○ | | 理工 |
| 情報科学入門 | 宇野 | ○ | ○ | 理工 |
| 情報科学入門 | 大橋 守 | ○ | | 理工 |
| 情報科学入門 | 岡村 | ○ | | 理工 |
| 情報科学入門 | 小野 | ○ | | 理工 |
| 情報科学入門 | 掛井 | ○ | | 総科 |
| 情報科学入門 | 金西 | ○ | ○ | 総合教育 |
| 情報科学入門 | 河原崎 | ○ | | 総科 |
| 情報科学入門 | 佐原 | | ○ | 総科 |
| 情報科学入門 | 澤田 | ○ | | 総合教育 |
| 情報科学入門 | 鈴木(雄) | ○ | | 非常勤 |
| 情報科学入門 | 中山(慎) | ○ | ○ | 理工 |
| 情報科学入門 | 未定 | | ○ | 産学官 |
| 情報科学入門 | 蓮沼 | ○ | ○ | 理工 |
| 情報科学入門 | 松本(和) | | ○ | 理工 |
| 情報科学入門 | 石丸 他 | | ○ | 生物資源 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 情報科学入門 | 松浦 | ○ | | 理工 |

3) スタディスキル

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|------------------------------------|---------|-----|-----|------|
| この良さをわかってほしい | 佐藤(征) | ○ | | 生物資源 |
| ビジュアルコミュニケーション | 佐原 | ○ | | 総科 |
| 研究支援職入門～リサーチアドミニストレーター・コーディネーター概論～ | 織田 他 | ○ | | 産学官 |
| 名著講読－世界の見方～文学作品や科学随筆を読む－ | 依岡 | ○ | | 総科 |
| 名著講読－未知との出会い～文学作品や随筆を読む－ | 依岡 | | ○ | 総科 |
| 読書コミュニケーションへのいざない～読書の新しい楽しみ方～ | 依岡 他 | ○ | | 総科 |
| 読書コミュニケーションへのいざない～ビブリオバトルをやるう！～ | 依岡 他 | | ○ | 総科 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-------------------------|---------|-----|-----|-----|
| 大学の知の活用(eラーニング科目(知プラe)) | 織田 | | ○ | 産学官 |

4) コミュニケーション

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-------------|---------|-----|-----|------|
| 乳幼児との交流から学ぶ | 荒木(秀) 他 | ○ | | 教養教育 |

6 地域科学教育科目群

1) 地域科学教育科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------------------|---------------------|-----|-----|------|
| 地方行政経営論 | 石田 和之 | | ○ | 総科 |
| ボランティア活動から学ぶグローバル社会と地域社会 | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| ボランティアリーダーと語る地域社会 | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| 実践力養成型インターンシップⅠ | 川崎(克) 他 | ○ | | 非常勤 |
| 実践力養成型インターンシップⅡ | 川崎(克) 他 | | ○ | 非常勤 |
| 徳島の魅力・徳島で働く | 川崎(修) 他 | 集中 | | 非常勤 |
| 歴史から学ぶ地域～経済・社会～ | 桑原 恵 | ○ | | 総科 |
| 地球環境と持続可能な社会 | 齊藤(隆) | | ○ | 教養教育 |
| まちづくり入門 | 田口 | | ○ | 総科 |
| 食の地域経済学 | 玉 | ○ | | 生物資源 |
| 日本農業を考える | 玉 | | ○ | 生物資源 |
| ボランティア・パスポート入門 | 玉 他 | ○ | | 生物資源 |
| ボランティア実践 | 樋口 他 | | ○ | 総科 |
| 統計データからみる徳島県 | 徳島県政策創造部 統計戦略課職員 | | ○ | 非常勤 |
| とくしまの環境を学ぼう | 徳島県職員 | ○ | | 非常勤 |
| 徳島を考える | 豊田 他 | ○ | | 総科 |
| 埋もれた文化遺産Ⅰ | 中村 豊 他 | ○ | | 総科 |
| 埋もれた文化遺産Ⅱ | 中村 豊 他 | | ○ | 総科 |
| 地域の自然と食材 | 浜野 | ○ | | 生物資源 |
| 実践・地域創生学 | 山中 | | ○ | 理工 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--------------|---------|-----|-----|------|
| 徳島の魅力・徳島で働く | 川崎(修) 他 | 集中 | | 非常勤 |
| 地球環境と持続可能な社会 | 齊藤(隆) | | ○ | 教養教育 |

【eラーニング科目(知プラe)】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------------------------------|---------|-----|-----|-----|
| 瀬戸内海論 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 原 | ○ | | 非常勤 |
| 瀬戸内海論 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 原 | ○ | | 非常勤 |
| 瀬戸内地域活性化政策 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 清國 | | ○ | 非常勤 |
| 瀬戸内地域活性化政策 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 清國 | | ○ | 非常勤 |

☆地域志向科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|--|---------|-----|-----|------|
| グローバル社会に必要な地域医療とは | 大橋 眞 | ○ | | 教養教育 |
| 気象災害を防ぐ | 西山 | ○ | | 理工 |
| 災害を知る | 中野 | ○ | | 理工 |
| グローバル化時代の地域医療を考える | 大橋 眞 | | ○ | 教養教育 |
| 空海と歩く～歩き遍路の世界～ | 田中(俊) | | ○ | 大学開放 |
| 地震・火山災害を防ぐ | 西山 | | ○ | 理工 |
| 国際協力論－この貧困と紛争の尽きない世界で－ | 饗場 | | ○ | 総科 |
| Global Communication – Peer learning on culture of Tokushima – | 宮崎 | | ○ | 教養教育 |
| 災害に備える | 中野 | | ○ | 理工 |
| 地域コンテンツと知財管理 その1 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 地域コンテンツと知財管理 その2 (eラーニング科目(知プラe)) | 林 他 | | ○ | 非常勤 |
| 「モラエスの徳島」～グローバルイズムと異邦人～(eラーニング科目(知プラe)) | 宮崎 | | ○ | 教養教育 |

7 医療基盤教育科目群

1) 医療基盤教育科目

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------------|---------|-----|-----|-----|
| 社会人としてのマナーを学ぶ | 岩佐 | ○ | | 医 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|-------------|---------|-----|-----|-----|
| 医学心理行動学 | 大森 | ○ | | 医 |
| 医と法・倫理 | 西村 | ○ | | 医 |
| 実験動物学・放射線概論 | 松本(高) 他 | ○ | | 医 |
| 医療情報処理学入門 | 近藤 | ○ | | 非常勤 |
| 放射線医学入門 | 上野(淳) 他 | | ○ | 医 |
| 臨床検査学入門 | 未定 | ○ | | |
| (歯)医療情報処理 | 河野 | ○ | | 歯 |
| (歯)口腔と健康 | 北畑 | ○ | | 歯 |
| (歯)歯学概論 | 歯学部教授 | | ○ | 歯 |

8 外国語教育科目群

1) 英語

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|----------|-----|-----|------|
| 基盤英語 | 石田 和枝 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 上野(加) | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 小笠原 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | カイザー | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 鎌田(ス) | ○ | | 教養教育 |
| 基盤英語 | 木里 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | ギュンター(デ) | ○ | | 教養教育 |
| 基盤英語 | 座喜 | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | スティーヴンズ | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 田久保 | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 谷川 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 中島 | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 西田(知) | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | ニムチャック | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 服部(恒) | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | パトリック | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 早内(ジ) | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 樋口(友) | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | フェネリー | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 藤滝 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | マーシェソ | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | マドックス | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 三宅(恵) | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 宮田 | ○ | | 総合教育 |
| 基盤英語 | 山内 | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 山田(紀) | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 山田(仁) | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 山森 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 吉田(文) | ○ | | 総科 |
| 基盤英語 | 米原 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | ラックストーン | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | ワイス | ○ | | 非常勤 |
| 主題別英語 | 石田 和枝 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 上野(加) | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 小笠原 | ○ | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | カイザー | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 鎌田(ス) | | ○ | 教養教育 |
| 主題別英語 | 木里 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | ギュンター(デ) | ○ | | 教養教育 |
| 主題別英語 | 田久保 | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 谷川 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 中島 | | ○ | 総科 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|----------|-----|-----|------|
| 主題別英語 | 西田(知) | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | ニムチャック | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 服部(恒) | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | パトリック | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 早内(ジ) | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 樋口(友) | ○ | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | フェネリー | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 藤滝 | ○ | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | フロスト | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | マーシェソ | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | マドックス | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 三宅(恵) | ○ | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 宮崎 | ○ | ○ | 教養教育 |
| 主題別英語 | 宮田 | ○ | ○ | 総合教育 |
| 主題別英語 | モートン | | ○ | 教養教育 |
| 主題別英語 | 藪下 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 山内 | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 山田(紀) | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 山田(仁) | ○ | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 山森 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 吉田(文) | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 米原 | ○ | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | ラックストーン | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | ワイス | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | 小笠原 | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | カイザー | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | 鎌田(ス) | ○ | ○ | 教養教育 |
| 発信型英語 | ギュンター(デ) | | ○ | 教養教育 |
| 発信型英語 | 座喜 | ○ | ○ | 総科 |
| 発信型英語 | ジョーンズ | ○ | | 非常勤 |
| 発信型英語 | スタージ | ○ | ○ | 総科 |
| 発信型英語 | スティーヴンズ | ○ | ○ | 総科 |
| 発信型英語 | 西田(知) | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | ニムチャック | ○ | | 非常勤 |
| 発信型英語 | 服部(恒) | ○ | ○ | 総科 |
| 発信型英語 | パトリック | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | 早内(ジ) | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | フェネリー | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | フロスト | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | マーシェソ | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | マドックス | ○ | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | 三宅 | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | モートン | ○ | | 教養教育 |
| 発信型英語 | ラックストーン | | ○ | 非常勤 |
| 発信型英語 | ワイス | ○ | ○ | 非常勤 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 基盤英語 | 藤滝 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | マドックス | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | 米原 | ○ | | 非常勤 |
| 基盤英語 | ワイス | ○ | | 非常勤 |
| 主題別英語 | マドックス | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | 山内 | | ○ | 総科 |
| 主題別英語 | 米原 | | ○ | 非常勤 |
| 主題別英語 | ワイス | | ○ | 非常勤 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 発信型英語 | 石田(メ) | ○ | | 非常勤 |
| 発信型英語 | パトリック | ○ | ○ | 非常勤 |

2) ドイツ語

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|----------|-----|-----|-----|
| ドイツ語入門 | 石川 | ○ | ○ | 非常勤 |
| ドイツ語入門 | 石田(基) | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | 井戸 | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | 今井(晋) | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | ギュンター(知) | ○ | ○ | 非常勤 |
| ドイツ語入門 | 熊坂 | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | シートゲス | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | ヘルベルト | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語入門 | 最上 | ○ | ○ | 非常勤 |
| ドイツ語初級 | 石川 | | ○ | 非常勤 |
| ドイツ語初級 | 井戸 | | ○ | 総科 |
| ドイツ語初級 | ギュンター(知) | ○ | ○ | 非常勤 |
| ドイツ語初級 | 熊坂 | | ○ | 総科 |
| ドイツ語初級 | シートゲス | ○ | ○ | 総科 |
| ドイツ語初級 | ヘルベルト | | ○ | 総科 |

【理工学部夜間主コース】

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| ドイツ語入門 | 依岡 | ○ | ○ | 総科 |

3) フランス語

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| フランス語入門 | 田島 | ○ | | 総科 |
| フランス語入門 | 田中 佳 | ○ | | 総科 |
| フランス語初級 | 田島 | | ○ | 総科 |
| フランス語初級 | 田中 佳 | | ○ | 総科 |

4) 中国語

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 中国語入門 | 新田 | ○ | | 総科 |
| 中国語入門 | 荒武 | ○ | | 総科 |
| 中国語入門 | 施 | ○ | ○ | 非常勤 |
| 中国語入門 | 邵 | ○ | ○ | 総科 |
| 中国語入門 | 田中(智) | ○ | ○ | 総科 |
| 中国語入門 | 范(莉) | ○ | ○ | 非常勤 |
| 中国語入門 | 山木 | ○ | ○ | 非常勤 |
| 中国語初級 | 新田 | | ○ | 総科 |
| 中国語初級 | 荒武 | | ○ | 総科 |
| 中国語初級 | 施 | | ○ | 非常勤 |
| 中国語初級 | 邵 | | ○ | 総科 |
| 中国語初級 | 田中(智) | | ○ | 総科 |
| 中国語初級 | 范(莉) | | ○ | 非常勤 |

5) 日本語（留学生対象）

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 日本語 1 | 遠藤 | ○ | | 非常勤 |
| 日本語 2 | 遠藤 | | ○ | 非常勤 |

| 授 業 題 目 | 担 当 教 員 | 前 期 | 後 期 | 所 属 |
|---------|---------|-----|-----|-----|
| 日本語 3 | 橋本 智 | ○ | | 国際 |
| 日本語 4 | 橋本 智 | | ○ | 国際 |
| 日本語 5 | 橋本 智 | ○ | | 国際 |
| 日本語 6 | 橋本 智 | | ○ | 国際 |
| 日本語 7 | 三隅 | ○ | | 国際 |
| 日本語 8 | 三隅 | | ○ | 国際 |

第 5 章

徳島大学教養教育履修規則

第5章 徳島大学教養教育履修規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、徳島大学学則（以下「学則」という。）第31条の規定に基づき、教養教育の授業科目、単位、履修方法、試験等に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 教養教育として開設する授業科目の区分は、一般教養教育科目群、グローバル化教育科目群、イノベーション教育科目群、基礎基盤教育科目群、汎用的技能教育科目群、地域科学教育科目群、医療基盤教育科目群及び外国語教育科目群とする。

(開設授業科目)

第3条 前条の各区分で開設する授業科目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 一般教養教育科目群

歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術

(2) グローバル化教育科目群

グローバル化教育科目

(3) イノベーション教育科目群

イノベーション教育科目

(4) 基礎基盤教育科目群

高大接続科目、自然科学入門、基礎数学、基礎物理学、基礎物理学実験、基礎化学、基礎化学実験、基礎生物学、基礎生物学実験、基盤教育学、ウェルネス総合演習

(5) 汎用的技能教育科目群

SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～、情報科学、スタディスキル、コミュニケーション

(6) 地域科学教育科目群

地域科学教育科目

(7) 医療基盤教育科目群

医療基盤教育科目

(8) 外国語教育科目群

英語、ドイツ語、フランス語、中国語

2 前項に規定するもののほか、外国人留学生に対しては、グローバル化教育科目群に日本事情を、外国語教育科目群に日本語を置く。

3 授業科目に授業題目を設ける。

4 授業題目、授業概要等の授業計画等については、別に定める。

(単位の基準等)

第4条 前条の授業科目の単位数は、次の各号に定めるところにより計算する。

(1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習及び実験は、30時間の授業をもって1単位とする。

(履修要件)

第5条 教養教育として履修する授業科目、単位数等の履修要件は、徳島大学教養教育院教授会（以下「教養教育院教授会」という。）における協議・調整を経て、各学部において定めるものとする。

(外国人留学生の履修の特例)

第6条 外国人留学生が、日本事情の単位を修得したときは、一般教養教育科目群の歴史と文化、人間と生命、生活と社会又は自然と技術の単位に、日本語の単位を修得したときは、外国語教育科目群の英語、ドイツ語、フランス語又は中国語の単位にそれぞれ充てることができる。

(履修手続)

第7条 学生は、学期の初めに第3条第4項に規定する授業計画から履修しようとする授業題目を選択して、別に定めるところにより履修の届出をしなければならない。

(授業科目の成績評価及び単位の認定)

第8条 授業科目の成績の評価は、試験、学習報告、学習状況等によって担当教員が行うものとし、合格者に対しては、学生が所属する学部の教授会の議を経て、当該学部長が単位を認定する。

(試 験)

第9条 試験は、原則として学期末に行う。ただし、演習、実験及び実習については、試験を行わないことがある。

2 試験を受けるには、授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。

(成 績)

第10条 成績は、100点をもって満点とし、60点以上をもって合格とする。

2 成績は、秀(90点以上)、優(80点以上)、良(70点以上)及び可(60点以上)に区分する。

(追試験及び再試験)

第11条 病気その他やむを得ない事情のため、定められた期日に受験できなかった者は、願い出により追試験を受けることができる。

2 試験を受けて合格しなかった者に対しては、再試験を行うことがある。

(既修得単位等の認定)

第12条 学則第21条の4、第21条の5、第22条、第22条の3及び第22条の4の規定により、編入学、再入学、補欠入学、転学部及び転学科を許可された者の教養教育に関する既修得単位の認定は、教養教育院教授会の予備審査に基づき、各学部教授会の議を経て、各学部長が行う。

2 学則第34条の5の規定による入学前の既修得単位の教養教育に関する単位としての認定は、前項の規定を準用する。

(留学及び他の大学又は短期大学において修得した単位の認定等)

第13条 学則第27条の2の規定により外国の大学又は短期大学に留学を許可された者及び第34条の2の規定により他の大学又は短期大学の授業科目の履修を許可された者の当該大学又は短期大学において修得した単位の教養教育に関する単位としての認定は、前条第1項の規定を準用する。

2 学則第34条の3の規定による大学以外の教育施設等における学修の教養教育に関する単位としての認定は、前条第1項の規定を準用する。

(雑 則)

第14条 この規則に定めるもののほか、教養教育の実施に関し必要な事項は、教養教育院教授会が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 徳島大学全学共通教育履修規則（平成5年規則第1100号）は廃止する。
- 3 平成28年3月31日に本学に在学する学生、平成28年度に歯学部歯学科の2年次に編入学する者並びに平成28年度及び平成29年度に医学部保健学科及び工学部各学科の3年次に編入学する者の全学共通教育科目の履修については、なお従前の例による。この場合において、履修する授業科目が教養教育院の開設する授業科目に掲げられているときは、当該授業科目の履修をもって全学共通教育科目の履修に代えることができるものとし、履修については各学部で定める。
- 4 前項前段の場合において、廃止前の徳島大学全学共通教育科目履修規則第12条及び第13条の規定に基づき行う単位の認定において必要な予備審査は、教養教育院教授会が行うものとする。

第6章

教養教育に関わる学生生活

| | |
|---------------------------|----|
| 1. 学生窓口と取扱時間 | 69 |
| (1) 教養教育履修学生の窓口事務 | 69 |
| (2) 2年生以降の窓口事務 | 69 |
| (3) 取扱時間 | 69 |
| 2. 学生への連絡方法（掲示及び教務事務システム） | 69 |
| 3. 学生証 | 70 |
| 4. 各種証明書の発行 | 70 |
| 5. 講義室の使用 | 71 |
| 6. 授業料 | 72 |
| 7. 授業料免除 | 72 |
| 8. 奨学金 | 72 |
| 9. 健康管理関係 | 73 |
| 10. 課外活動その他学生生活に関する事 | 73 |
| 11. 交通事故の防止 | 73 |
| 12. その他 | 73 |
| (1) 学生の呼び出し等について | 73 |
| (2) 郵便物について | 73 |
| (3) 喫煙について | 73 |
| (4) 遺失物及び拾得物について | 73 |
| (5) 交通事故・盗難について | 74 |
| (6) 携帯電話等の使用について | 74 |
| (7) エレベーターの使用について | 74 |
| (8) その他 | 74 |

第6章 教養教育に関わる学生生活

1. 学生窓口と取扱時間

(1) 教養教育履修学生の窓口事務

教育支援課教養教育係（教養教育4号館1階）では、主として1年生から2年生（前期）までの教養教育履修学生の窓口として、次の事務を取り扱っています。本履修の手引76ページ記載の配置図で位置を確認してください。

- 教養教育の教育課程に関すること。
- 教養教育の授業及び試験に関すること。
- 教養教育の成績に関すること。
- 教養教育に係る講義室の管理に関すること。
- 各種証明書の発行に関すること。
- その他教養教育に関すること。

(2) 2年生以降の窓口事務

2年生後期（医学部医学科は前期）からの窓口事務は、所属学部の学務（教務）係が担当します。所属学部の履修の手引等で位置を確認してください。ただし、教養教育を引き続き履修する者に係る履修手続き等は、教育支援課教養教育係が担当します。

2年生以降の窓口事務

| 所属学部・学科 | 担当係 | 地区 |
|----------|-------|-------|
| 総合科学部 | 学務係 | 常三島地区 |
| 医学部 医学科 | 第一教務係 | 蔵本地区 |
| 医科栄養学科 | 〃 | 蔵本地区 |
| 保健学科 | 第二教務係 | 蔵本地区 |
| 歯学部 | 学務係 | 蔵本地区 |
| 薬学部 | 学務係 | 蔵本地区 |
| 理工学部 | 学務係 | 常三島地区 |
| 生物資源産業学部 | 学務係 | 常三島地区 |

(3) 取扱時間

業務の取扱時間は、土・日・祝祭日を除き次のとおりです。

昼間コース学生： 8:30～17:15

夜間主コース学生： 8:30～21:30（金曜日は17:50まで）

2. 学生への連絡方法（掲示及び教務事務システム）

大学が、教養教育履修学生に対して行う一切の連絡・通知・告示等は、すべて掲示板（教養教育4号館1階のエレベーター前）及び教務事務システムにより行います。

掲示板には、「教養教育履修に関する事項」のほか、「授業時間割や教室変更」「休講通知」「試験や補講の実施及び成績交付」「追試・再試の実施」「奨学金の申請・許可」「授業料の納付」「授業料免除の申請・許可」「健康診断の実施」「学生呼出」など学生生活に関わることが掲示されます。

また、教務事務システムでは、休講・補講などの情報のほか、教員から直接発信されるメッセージ等、掲示板に掲示されない情報も発信されます。

教養教育掲示板及び教務事務システムを毎日確認しましょう。

3. 学 生 証

学生の身分を証明するもので、学期末試験の受験、各種証明書の発行や図書館の利用など、すべてに必要ですので常に携帯してください。

万一紛失又は汚損したときは、直ちに教育支援課教務・情報係（総合科学部・理工学部・生物資源産業学部）又は各学部教務・学務係（医学部・歯学部・薬学部）に行き、再発行の手続き（学生証汚損紛失届を提出）をしてください。

なお、学生証に記載されている内容は次のとおりです。

| 1 0 | 1 7 | 0 4 | 0 0 1 | 8 |
|----------|------|------------|-------|----------------------|
| 学部コード | 入学年度 | 学科コード | 一連番号 | チェックディジット |
| 総合科学部 | 1 0 | 社会総合科学科 | 0 5 | |
| 医学部 | 2 0 | 医学科 | 0 1 | |
| | | 医科栄養学科 | 0 2 | |
| | | 保健学科 | | |
| | | 看護学専攻 | 0 3 | |
| | | 放射線技術科学専攻 | 0 4 | |
| | | 検査技術科学専攻 | 0 5 | |
| 歯学部 | 3 0 | 歯学科 | 0 1 | |
| | | 口腔保健学科 | 0 2 | |
| 薬学部 | 4 0 | 薬学科・創製薬科学科 | 0 3 | |
| 理工学部 | 6 1 | 理工学科 | 0 1 | [夜間主コース] 理工学科 2 1 |
| 生物資源産業学部 | 7 0 | 生物資源産業学科 | 0 1 | |

4. 各種証明書の発行

(1) 証明書発行機で交付される証明書

「学割旅客運賃割引証（学割証）」、「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」「健康診断証明書」は、『証明書発行機』により交付されます。

証明書発行機の利用には、「学生証」が必要です。

※証明書発行機の設置場所

常三島地区：教養教育4号館1階、理工学部共通講義棟1階

蔵本地区：医学基礎A棟（第一教務係）1階、薬学部棟1階

① 学割旅客運賃割引証（学割証）

学割証は、割り当て枚数（10枚）の範囲内で学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものでなく、修学上の経済的負担の軽減と、学校教育の振興に寄与することを目的として設けられ

た制度で、原則として次の目的をもって鉄道旅行する場合に限り、年間10枚を限度として発行されます。ただし、JRの片道営業キロが101キロ以上の旅行でなければ利用できません。

*割り当て枚数は、必要により、所属学部の学務（教務）係または教育支援課教務・情報係へ申請することで増やすことができます。

【使用目的】

- ・ 休暇等による帰省
- ・ 正課の教育活動（実習など）
- ・ 課外活動
- ・ 就職又は進学のための受験等
- ・ 学校が認めた見学又は行事への参加
- ・ 傷病の治療等
- ・ 保護者との旅行

【使用上の注意】

- ・ 学割証は、他人に譲渡してはならない。
- ・ 有効期限は、発行日から3カ月以内であるので、有効期間を厳守すること。
- ・ 使用に際しては必ず学生証を携帯することとし、申請目的以外の目的で使用しないこと。
- ・ 学割証の不正使用に対しては、JRから、本人はもちろんのこと全学生に対する学割証発行停止等の措置を取られることがあるので、絶対に慎むこと。

- ② 在学証明書
- ③ 成績証明書
- ④ 卒業見込証明書
- ⑤ 健康診断証明書

(2) 窓口で交付される証明書

通学証明書は、教育支援課教養教育係（教養教育4号館1階）で交付されます。

通学証明書は、通学のため定期券を購入するために発行するものです。通学定期券使用時は、学生証を必ず携帯してください。また、通学以外のアルバイト等には使用できません。

【申請】教育支援課教養教育係に備えてある「通学証明書交付願」に必要事項を記入の上、申し込んでください。

【交付】申請日の次の日から3日後（土曜・日曜・祝祭日は除く。）に教育支援課教養教育係で発行されるので、受け取ってください。

5. 講義室の使用

教養教育4号館の講義室は、授業及び大学の行事等に差し支えない場合で、学生が課外活動等で20名以上の会議等を行う場合に限り、使用することができます。希望する場合は、次により申請してください。

【申請】教育支援課教養教育係で空き講義室を確認の上、使用日の3日前（土・日及び祝祭日は除く。）までに次により教育支援課教養教育係に願い出てください。

- 公認の学生団体又は大学祭実行委員会等（学生委員会で承認されたもの）が講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、学生支援課学生支援係長の認印を得るとともに所定の「集會者名簿」を添え、教育支援課教養教育係へ願い出てください。
- クラス単位で講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、所属学部の指導教員又は学務（教務）係長の認印を得るとともに所定の「集會者名簿」を添え教育支援課教養教育係へ願い出てください。

【許可】使用を許可したときは、使用許可証を交付します。講義室の使用時間は特に許可された場合を除き、月曜日から木曜日の18時から20時までとし、使用に当たっては次のことに留意してください。

【使用上の注意】

- ① 使用後は、整理・整頓に留意し、戸締まりや後片付けをすること。
- ② 火気の使用及び喫煙は禁止する。
- ③ 借りた物品は、その日のうちに速やかに教育支援課教養教育係へ返却すること。

6. 授 業 料

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の期間に納付してください。ただし、前期・後期分を併せて納付することも可能です。

(1) 納 付 期 間

- 前期分授業料 4月1日から4月30日まで（新入生にあつては、入学許可日から4月30日まで）
- 後期分授業料 10月1日から10月31日まで

注 授業料の納付を怠ったときは、除籍の対象となりますので期限内に必ず納付してください。

(2) 納 付 方 法

- 1年次生の前期分授業料は、入学手続き時に配布された振込依頼書（青色）を使用し、銀行窓口で振り込んでください。なお、授業料免除を申請する方は、授業料を振り込まずに免除の申請書類を提出してください。
- 1年次生の後期からの授業料は代行納付方式により納付することとなります。

注 代行納付とは、学生又は保証人名義の預金口座からの自動引落し（一定期日）により、銀行が学生に代わって授業料を大学に納付する方法です。

- 上記方法によらない現金納付の場合は、「6. (3) 納付場所」に示す窓口へ現金を持参してください。

(3) 納 付 場 所

- 総合科学部，理工学部，生物資源産業学部学生：常三島事務部会計課経理係
（理工学部共通講義棟1F）
- 医学部，歯学部，薬学部学生：蔵本事務部会計課経理係（医学基礎A棟1F）

7. 授 業 料 免 除

経済的な理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者に対しては、授業料の全額又は半額を免除する制度があります。詳しくは「学生生活の手引」を参照してください。

8. 奨 学 金

日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間奨学金に関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

9. 健康管理関係

定期健康診断の実施や保健管理センターの利用及び学生教育研究災害傷害保険に関することは「学生生活の手引」を参照してください。

10. 課外活動その他学生生活に関すること

これらに関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

11. 交通事故の防止

最近、交通事故が社会的に大きな問題となっていますが、本学学生の中にも、その当事者となり、身体的、精神的な打撃を受けて、勉学に支障を来している人もおります。また、学内においても、自動車、オートバイ及び自転車の無秩序な駐車等が原因の事故、並びに市道への飛び出しによる出合い頭の衝突事故が多発しており、その対策として、下記により学内の交通を規制しています。お互いに迷惑を掛けないように、自主的で規律のある行動を期待しています。

- 自動車及びオートバイのキャンパス内への乗り入れ・走行は禁止します。
- 総合科学部第一駐車場の使用は、許可車（夜間主コース学生のみ）に限ります。
- オートバイ及び自転車は、必ず指定された場所へ置いてください。
- 総合科学部と理工学部の間を市道を走行するときには、特に次の点に注意してください。
 - ・市道での自動車・オートバイ走行は、制限速度を遵守するとともに、正門等からの自転車や学生の飛び出しにも十分注意してください。
 - ・市道での自転車走行や歩行は車等に注意し、道路端を一直線に走行・歩行してください。
 - ・オートバイあるいは自転車の駐輪場への出入りの際は、必ず一時停止をして、十分に安全確認をしてください。
 - ・市道への駐車は交通の妨害となり、危険なので絶対にしないでください。

12. その他

(1) 学生の呼び出し等について

電話による学生の呼び出しや住所・電話番号の照会には応じることはできませんので、保護者や知人に十分周知しておいてください。

(2) 郵便物について

学生個人あての郵便物等は、原則として取り扱いできません。

(3) 喫煙について

構内の喫煙については、指定場所以外の喫煙は禁止します。もちろん、講義室、廊下その他の場所における歩きながらの喫煙も禁止します。なお、喫煙した場合はすいがらを灰皿にすてること。

(4) 遺失物及び拾得物について

教養教育棟における、遺失物及び拾得物は教育支援課教養教育係に、速やかに届けてください。

(5) 交通事故・盗難について

教養教育棟における交通事故，盗難被害は，学生支援課（教養教育4号館1階）に速やかに届け出てください。特に，体育館，総合運動場での盗難には十分注意しておいてください。

(6) 携帯電話等の使用について

携帯電話等のスイッチは，授業中は切っておいてください。

(7) エレベーターの使用について

身体に障がいをもつ学生のため，教養教育4号館1階にエレベーターを設置してあります。ケガや病気等やむを得ない場合を除き，一般学生の使用は遠慮してください。

(8) そ の 他

大声でしゃべったり，大きな音を立てるなど，他の人に迷惑となる行為は慎んでください。

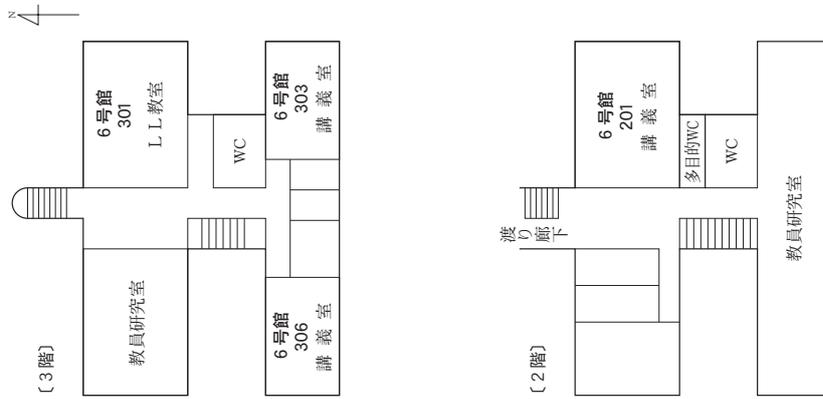
第7章

常三島キャンパス

| | |
|----------------------|----|
| 総合科学部建物配置図（教養教育棟を含む） | 76 |
| 理工学部建物配置図 | 76 |
| 教養教育4, 5, 6号館 | 77 |
| 総合科学部1, 2, 3号館 | 78 |
| 理工学部共通講義棟（K棟） | 78 |
| 総合運動場 | 79 |

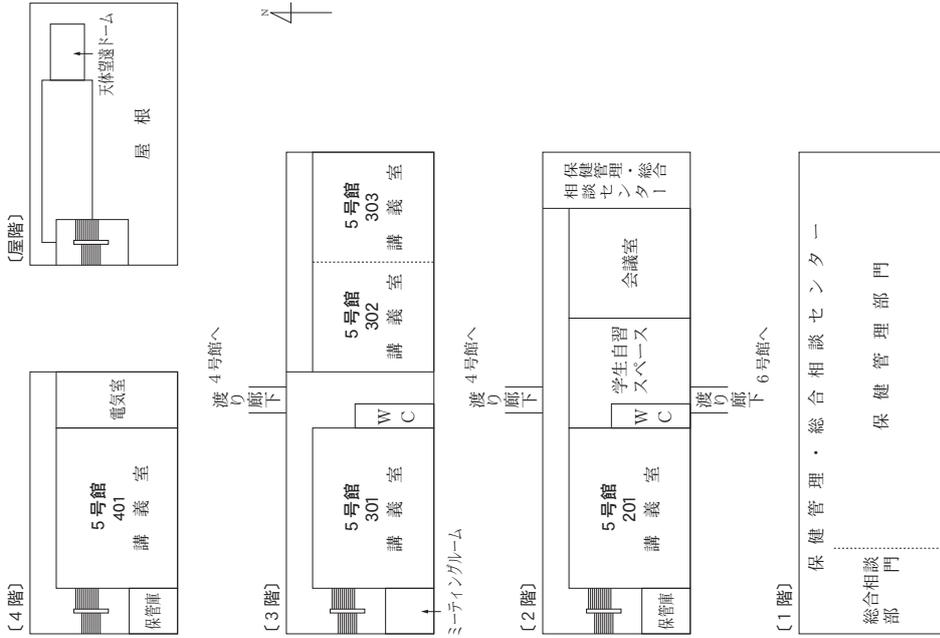
教養教育6号館

教養教育講義室と大学開放実践センター教員室があります。



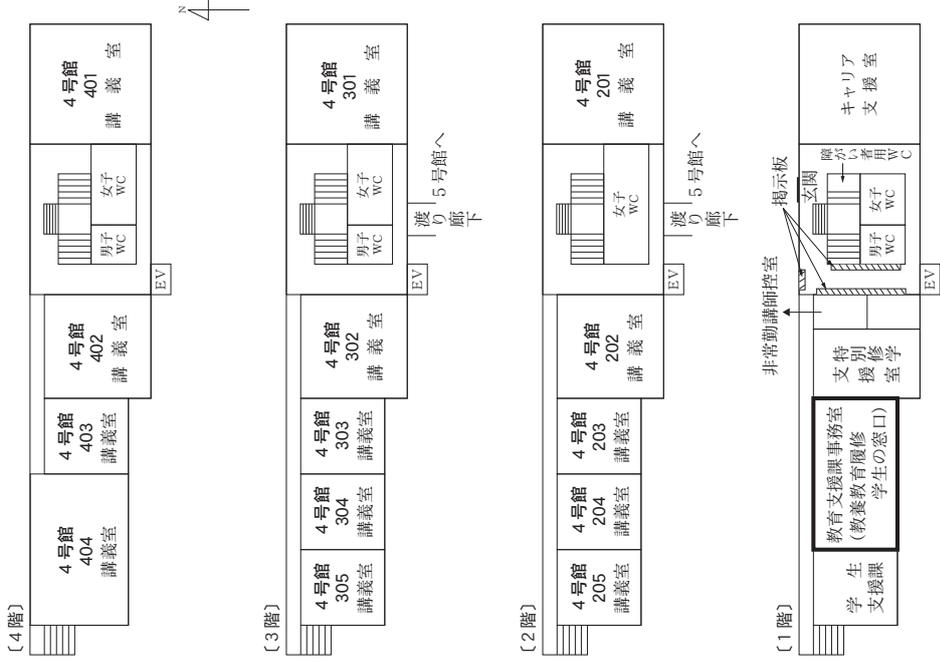
教養教育5号館

教養教育講義室（学生自習スペースを含む）と保健管理・総合相談センターがあります。



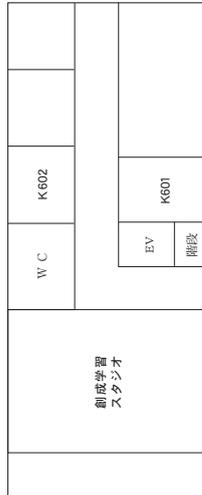
教養教育4号館

教養教育講義室と教養教育の窓口、授業料免除・奨学金の窓口、キャリア支援室などがあります。

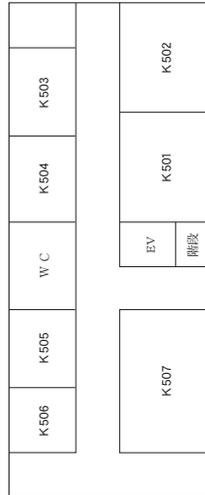


理工学部共通講義棟 (K棟)

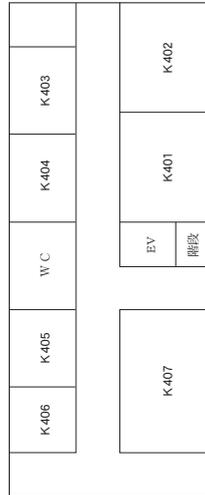
〔6階〕



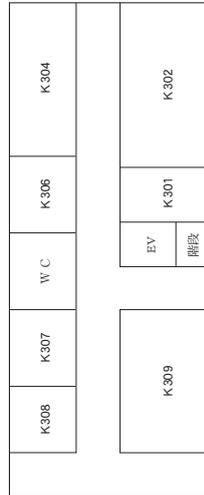
〔5階〕



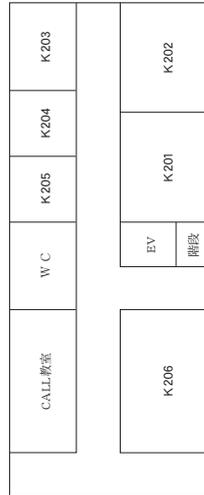
〔4階〕



〔3階〕

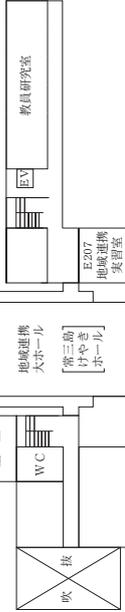


〔2階〕



総合科学部 2号館

〔2階〕

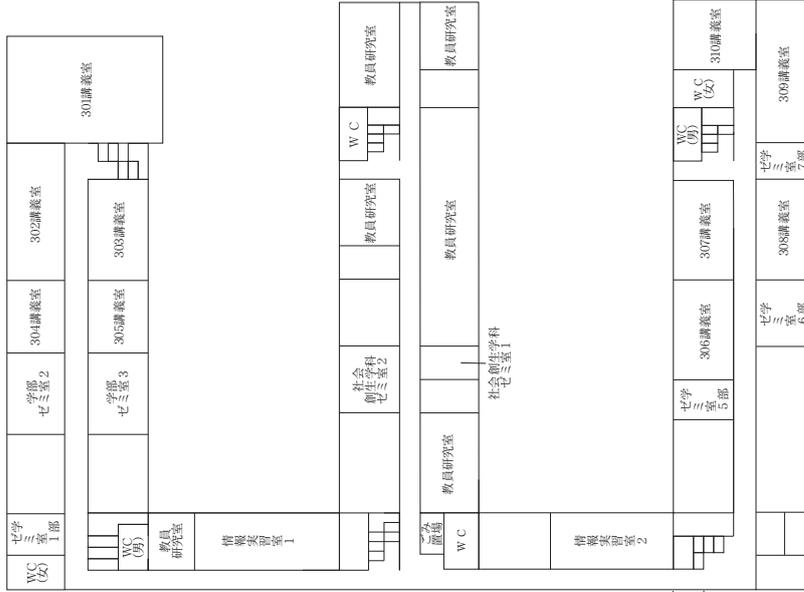


〔1階〕



総合科学部 1号館

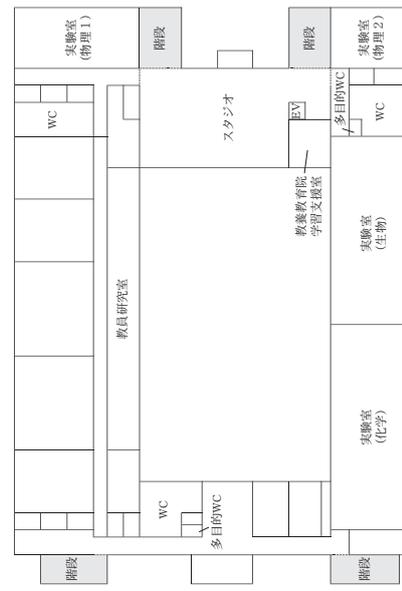
〔3階〕



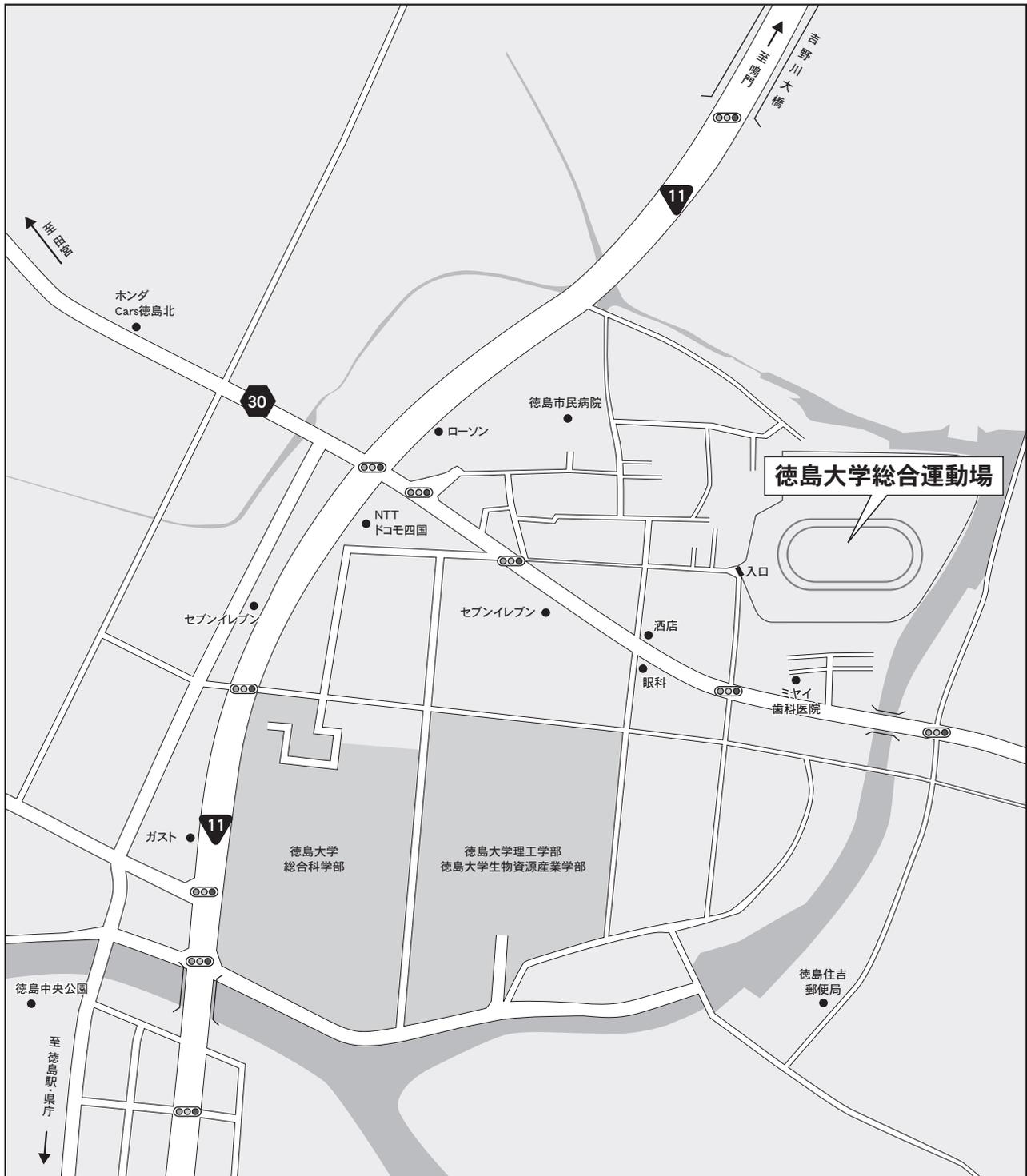
総合科学部 3号館

実験室, 学習支援室などがあります。

〔1階〕



●徳島大学総合運動場へのアクセス



**2017(平成29)年度
教養教育履修の手引**

徳島大学教養教育院

〒770-8502

徳島市南常三島町1丁目1番地

TEL 088-656-7308

教養教育院ロゴマーク

ロゴマークとしてバンジーの花を用いました。
バンジーの名称は、フランス語の“思う、考える”を意味する
バンゼに由来します。
平成20年3月に全学共通教育センターのロゴとして採用され、
平成28年4月から教養教育院ロゴマークとして継承しました。

| | |
|-------|----------------------|
| 学 部 | <input type="text"/> |
| 学科・専攻 | <input type="text"/> |
| 学籍番号 | <input type="text"/> |
| 氏 名 | <input type="text"/> |

INSU...